

京都市内遺跡立会調査概報

平成4年度

京 都 市 文 化 観 光 局

『京都市内遺跡立会調査概報 平成4年度』正誤表

1993年 (財)京都市埋蔵文化財研究所

頁	行	(誤)	(正)
カラー図版二	上段	92H L 367出土	91H L 367出土
8	17行	道路中央に四丈幅の	道路中央に二丈幅の
10	1行	遺物 (図版19~20, 図10, 11)	遺物 (図版19~21, 図10, 11)
25	図28	調査位置図 (1/800)	調査位置図 (1/1250)
25	1行	遺構・遺物 (図版26・27, 図29・30)	遺構・遺物 (図版26・27, 図28~30)



92H L.44出土 線刻画弥生土器



92H L 367出土 漆器と折敷板（鎌倉時代後期）



病草紙「齒槽膿漏を病む男」（平安時代末期：京都国立博物館所蔵）

序

四季折々に変化する趣のある景色と貴重な文化財が調和している京都は、日本の古都として毎年多くの入浴者を迎えます。私達が馴染み親しんだこのような風景は、平安建都以来の人々の営みの積重ねから生まれてきたものでした。

このような文化遺産のほかに、土に埋もれ、姿を隠してしまった文化財が数多くあることをもっと知って頂きたいと思います。また、これらを愛護し、将来へ正確に伝えて行くことが今を生きるわたしたち市民の課題であろうと思います。

このようなことから、埋蔵文化財の発掘調査を通して平安建都1200年の歴史のなかで失われ、姿を消した京都の文化遺産を現代に蘇らせ、ここから新しい文化を創造する糧と方法を学ぶことが、課題に答える方法の一つではないかと考えています。

本書は、京都市が平成4年度に文化庁の国庫補助を得て実施しました埋蔵文化財発掘調査の報告書であり、調査にあたって、ご支援とご協力を頂いた市民の皆様にご心から感謝いたしますとともに、本書が文化財保護に役立てられることを期待いたします。

平成5年3月

京都市文化観光局

例 言

- 1 本書は京都市文化観光局が財団法人京都市埋蔵文化財研究所へ委託して実施した、文化庁国庫補助を伴う平成4年度の京都市内遺跡立会調査概要報告である。
- 2 執筆は伊藤潔、川村雅章、小檜山一良、尾藤徳行、平田泰、本弥八郎、吉村正親、吉本健吾、電子正彦が担当し、文末に分担を明記した。
- 3 写真は遺構の一部を除き村井伸也と幸明綾子が担当した。
- 4 京都市遺跡発掘調査基準点を使用し測量を行った。座標は平面直角座標系VIである。座標の数值はm単位で、標高は海拔高(T.P)である。
- 5 本書作成にあたっては、永田信一、本弥八郎の指導のもと、編集と調整は近藤章子、伊藤潔、小松武彦が行った。

整理、作成作業には執筆者のほか以下のものが参加した。

本田次男、北川和子、宮下則子、端美和子、児玉光世

- 7 本書に使用した遺構の略記号は奈良国立文化財研究所の用例にしたがった。
- 8 本書に掲載した地図は京都市長の承認を得て同市発行の都市計画基本図(縮尺:1/2500)を複製して調整したものです。

平安宮跡 図版3 8000分の1(聚楽廻、壬生)

平安京跡 図版4~13 10000分の1(花園、聚楽廻、御所、山ノ内、壬生、三条大橋、西京極、島原、五条大橋、中河原、梅小路、京都駅)

白河街区、岡崎遺跡 図版14 10000分の1(御所、吉田、三条大橋、岡崎)

鳥羽離宮跡 図版15 10000分の1(城南宮、竹田、下鳥羽、丹波橋)

右京七条二坊十三町 図1 5000分の1(西京極、中河原)

右京八条二坊 五町 図5 5000分の1(西京極、中河原、島原、梅小路)

左京四条三坊十一町 図6 5000分の1(三条大橋)

左京四条三坊十一町 図12 5000分の1(三条大橋)

左京四条三坊十六町 図16 5000分の1(三条大橋)

左京八条三坊 九町 図21 5000分の1(五条大橋、京都駅)

左京八条三坊十五町 図25 5000分の1(京都駅)

御堂ヶ池古墳群 図27 5000分の1(宇多野、鳴滝)

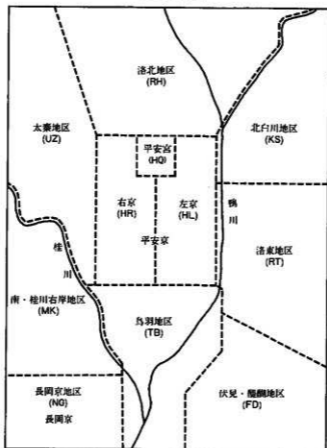
法興院跡 図31 5000分の1 (御所、三条大橋)

珍皇寺旧境内 図39 5000分の1 (五条大橋)

深草坊町遺跡 図44 5000分の1 (竹田)

向島城跡 図49,50 5000分の1 (中書島、向島)

地区設定図



本文目次

I 調査概要	1
II 平安京跡	
1 右京七条二坊十三町 (91H R318)	3
2 右京八条二坊 五町 (92H R283)	5
3 左京四条三坊十一町 (91H L367)	9
4 左京四条三坊十一町 (92H L44)	14
5 左京四条三坊十六町 (92H L268)	17
6 左京八条三坊 九町 (91H L385)	20
7 左京八条三坊十五町 (91H L350)	23
III その他の遺跡	
1 御堂ヶ池古墳群 (91U Z393)	24
2 法興院跡 (92R T229)	29
3 珍皇寺旧境内 (92R T240)	36
4 深草坊町遺跡 (92FD79)	41
5 向島城跡 (91FD152・161・311・349, 92FD190)	43

図 版 目 次

- 図版1 平安京図葉分割図
- 図版2 平安宮域概念図
- 図版3 平安宮
- 図版4 右京 北辺・一・二・三条 三・四坊
- 図版5 右京 北辺・一・二・三条 一・二坊
- 図版6 左京 北辺・一・二・三条 一・二坊
- 図版7 左京 北辺・一・二・三条 三・四坊
- 図版8 右京 四・五・六・七条 三・四坊
- 図版9 右京 四・五・六・七条 一・二坊
- 図版10 左京 四・五・六・七条 一・二坊
- 図版11 左京 四・五・六・七条 三・四坊
- 図版12 右京 八・九条 三・四坊 左京 八・九条 一・二坊
- 図版13 右京 八・九条 一・二坊 左京 八・九条 三・四坊
- 図版14 白河街区跡
- 図版15 鳥羽離宮跡
- 図版16 遺物 平安京右京七条二坊十三町 (91HR318)
- 図版17 遺跡 平安京左京四条三坊十一町 (91HL367)
- 図版18 遺跡 平安京左京四条三坊十一町 (91HL367)
- 図版19 遺物 平安京左京四条三坊十一町 (91HL367)
- 図版20 遺物 平安京左京四条三坊十一町 (91HL367)
- 図版21 遺物 平安京左京四条三坊十一町 (91HL367)
- 図版22 遺物 平安京左京四条三坊十一町 (92HL44)
- 図版23 遺跡 平安京左京四条三坊十六町 (92HL268)
- 図版24 遺物 平安京左京四条三坊十六町 (92HL268)
- 図版25 遺跡・遺物 平安京左京八条三坊九町 (91HL385)
- 図版26 遺跡 御堂ヶ池古墳群 (91UZ393)
- 図版27 遺跡 御堂ヶ池古墳群 (91UZ393)

- 図版28 遺跡 法興院跡 (92 R T 229)
 図版29 遺物 法興院跡 (92 R T 229)
 図版30 遺物 法興院跡 (92 R T 229)
 図版31 遺跡 珍皇寺旧境内 (92 R T 240)
 図版32 遺物 珍皇寺旧境内 (92 R T 240)
 図版33 遺物 珍皇寺旧境内 (92 R T 240)
 図版34 遺跡・遺物 深草坊町遺跡 (92 F D 79)
 図版35 遺跡 向島城跡 (91 F D 152・161・311・349, 92 F D 190)
 図版36 遺跡 向島城跡 (91 F D 152・161・311・349, 92 F D 190)
 図版37 遺物 向島城跡 (91 F D 152・161・311・349, 92 F D 190)
 図版38 遺物 向島城跡 (91 F D 152・161・311・349, 92 F D 190)

挿 図 目 次

図1 調査位置図	3	図17 遺構位置図	17
図2 遺物実測図	4	図18 遺構断面図	18
図3 調査位置図	5	図19 遺構断面図	18
図4 路面堆積層	6	図20 遺物実測図	19
図5 右京八条二坊地区遺構分布図	7	図21 調査位置図	20
図6 調査位置図	9	図22 遺構位置図	20
図7 遺構位置図	10	図23 遺構断面図	21
図8 No.3地点 水溜遺構実測図	10	図24 遺物実測図	22
図9 No.2地点 遺構断面図	10	図25 調査位置図	23
図10 遺物実測図	11	図26 遺物実測図	23
図11 遺物実測図	12	図27 調査位置図・古墳分布図	24
図12 調査位置図	14	図28 調査位置図	25
図13 遺構位置図	14	図29 遺構断面図・模式図	26
図14 遺物実測図	15	図30 遺構断面図	27
図15 遺物実測図	16	図31 調査位置図	29
図16 調査位置図	17	図32 遺構位置図	29

図33 遺構断面図・平面図	30	図43 瓦拓影図	39
図34 No.2 地点遺物出土状況・模式図	31	図44 調査位置図	41
図35 No.2 地点 出土土器A	32	図45 遺構断面図	41
図36 遺物実測図	32	図46 遺構位置図	41
図37 遺物実測図	33	図47 瓦拓影図	42
図38 軒丸瓦拓影・実測図	34	図48 遺物実測図	42
図39 調査位置図	36	図49 調査位置図	44
図40 遺構位置図	37	図50 向島城推定図	45
図41 遺構断面図	37	図51 土層断面図	47
図42 遺物実測図	38		

表 目 次

昭和55年～平成4年の試掘・立会調査件数	2
箸の度数分布	12
調査一覧表	50

I 調査の概要

本書では、平成4年1月4日から平成4年12月28日までの間に実施した立会調査の概要を報告する。本年度の立会調査の総件数は440件である。市内を11ブロックに分けて実施したその内訳は、平安宮地区(HQ)76件、平安京右京地区(HR)66件、平安京左京地区(HL)124件、太秦地区(UZ)13件、洛北地区(RH)32件、北白川地区(KS)12件、洛東地区(RT)34件、伏見・醍醐地区(FD)34件、鳥羽地区(TB)22件、南・桂川右岸地区(MK)12件、長岡京地区(NG)15件である。ここでは、本年度の調査で得られた成果について、以下に地区別にその概略を述べる。

平安宮地区(HQ) 平安宮域での調査では、掘削深度が浅いため江戸時代の包含層でとどまる場合が多く、本年度に於いては特筆すべき成果は少ない。ただ、宴の松原(92HQ36)で表土下0.6mに平安時代の包含層と時期不明の溝を検出。内匠寮(92HQ134)で表土下0.4mに平安時代前期の包含層を確認している。

平安京右京地区(HR) 右京域では、平安時代の包含層を各所で検出している。発掘調査でも明らかのように五条以南八条間では湿地状の堆積層が数箇所認められ、湿地の様相と範囲を知るうえで貴重な資料が得られた。また、五条二坊十六町(91HR343)・六条二坊十六町(92HR28)の2箇所佐井川の東側に杭列を検出した。七条二坊十三町(91HR318)、八条二坊五町(92HR283)の調査で出土した遺物は本書に掲載している。

平安京左京地区(HL) 左京域は右京域に比べほぼ2倍の調査件数があり、またこの地域の歴史的経過から遺構・遺物内容も江戸時代から縄文時代に及ぶ。遺構では井戸、土塀、路面、側溝などが各時代ともに多く認められた。本書で掲載するのは、四条三坊十一町(91HL367)で出土した鎌倉時代の漆器類、同条坊内(92HL44)で出土した弥生土器、四条三坊十六町(92HL268)で検出した室町時代後期の濠とその遺物、八条三坊九町(92HL385)で検出した七条大路の路面と側溝、八条三坊十五町(91HL350)の井戸出土の一括遺物である。

太秦地区(UZ) 御堂ヶ池古墳群の調査(91UZ393)では、すでに消滅したとされる古墳を3基検出しており、詳細を本書に掲載した。

洛北地区(RH) RH地区は、弥生～古墳時代の広大な集落遺跡である植物園北遺跡を擁しており、調査件数も多いが、本年度は顕著な遺構の検出はない。北野鹿寺跡では、(92

RH217) で凝灰岩を検出。(92RH251) では飛鳥時代の柱穴を検出している。

北白川地区(KS) KS地域では、明確な遺構はなく各時代の包含層を確認した。

洛東地区(RT) この地区には中臣遺跡、法住寺殿跡・六波羅政庁跡などがあるが、本年度の食重な発見としては、珍皇寺旧境内の調査(92RT240)で飛鳥時代の遺構・遺物を検出。寺域が不明確であった法興院跡の調査(92RT229)で東西方向の溝などを検出している。この2件は本書に掲載している。

伏見・醍醐地区(FD) 伏見城跡と向島城跡の調査が主体である。伏見城跡では室町時代から江戸時代にかけての遺構が認められ、土塀、柱穴、溝、路面などがある。伏見区東大手町の調査(92FD49)では大手筋の北側石組溝の一部を検出している。深草坊町遺跡(92FD79)の調査では平安時代後期の溝とそれに伴う遺物を検出、向島城跡(92FD190)の調査では、墨書された城の石材を発見し、この2件は本書で詳しく掲載している。

鳥羽地区(TB)、南・桂川右岸地区(MK)、長岡地区(NG) TB地区では包含層を各所で検出したが、明確な遺構は少ない。ただ、淀城跡(92TB118)に於いて濠の西肩を確認している。MK地区での調査は12件のみで、時期不明の流路状地積を2箇所、溝遺構を1箇所検出したのみである。NG地区では特筆すべき成果は無かった。

以上が本年度の立会調査で得られた主要成果の概要である。表で見られるごとく、研究所が設立されて以来実施してきた立会および試掘調査の件数は膨大である。年毎に概要報告を刊行しているが、これらの調査成果を資料として、発掘調査時の遺構推定あるいは調査計画が容易になる場合がある。またそれとは別に今後の課題としては、集積した成果を地域ごとに集成していく作業が残っている。(本)

昭和55年～平成4年の試掘・立会調査件数

年度\地区	平安宮	左京	右京	他地区	試掘計	立会計	計	内発掘
昭和55年		576			98	478	576	—
56		676			104	572	676	12
57		788			117	671	788	13
58		415		230	101	544	645	10
59	94	195	318	291	127	771	898	14
60	99	215	336	341	145	846	991	16
61	83	205	306	339	91	842	933	13
62	82	191	310	305	124	764	888	31
63	101	182	241	294	163	655	818	36
平成元年	84	154	204	248	142	547	690	35
2	103	114	188	209	135	479	614	35
3	57	75	125	135	—	392	392	—
4	76	66	124	174	—	440	440	—

II 平安京跡

1 右京七条二坊十三町 (91HR318)

調査経過

調査地は、下京区西七条北衣田町36番地に所在する。当地に建物新築工事が計画されたため、工事に伴う調査を実施することになった。当該地は、衣田町遺跡(弥生から古墳時代)に該当するが、平安京西市跡の西南地区に近接するため、平安時代の遺構・遺物が検出される可能性があった。調査の結果、平安時代前期から後期にかけての土器類を含む湿地状の堆積土層を検出した。調査は、1992年1月16日から20日まで実施した。工事面積は約180㎡である。

遺 構

湿地状堆積の基本層序は、上から盛土層が66cm、灰オリーブ色泥砂層(1層)が34cm、青灰色砂泥層(2層)が34cm、褐灰色砂泥層(3層)が10cm、褐色砂礫層(4層)が24cm、以下にオリーブ褐色砂礫層(5層)と続く。

1層は、平安時代後期に属する。2層は平安時代前期、中期の遺物を多量に包含するが、平安時代後期の遺物が含まれていることから、この時期に埋まった湿地と考えられる。3層は平安時代中期に属する。4層、5層は無遺物層である。

遺物(図版16、図2)

1～3は土師器皿で、指圧痕を外面に多く残し、器壁は非常に薄い。4～8は緑釉陶器である。4は須恵質の素地に施釉されたもので、釉は厚く色調は暗緑色を呈する。京都洛西の小塩産であろう。5の胎土は砂質の軟陶で、色調は灰白色を呈している。見込みに簡略化した除刺花文とヘラミガキを認める。釉調は透明性の高い明緑色で、東海産と考えられる。6は須恵質の素地に濃緑の釉薬を施す。見込みに輪状の沈線が入り、輪高台の内側に段が付く張り付け高台である。近江産と思われる。7はやや底部中央がくぼむケズリ出しの平高台で、京都洛北産である。8は高杯で白っぽい砂質の素地に薄い緑釉をかけ、全



図1 調査位置図(1/5,000)

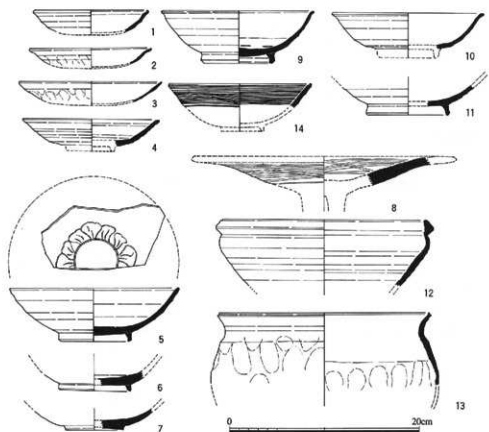


図2 遺物実測図 (1/4)

面をヘラミガキしている。9～11は灰釉陶器の碗で、軸はつけがけになっている。12は須恵器の鉢で、京都周辺に生産地をもつ。13は土師器の甕で、これのみ第3層より出土した。10世紀初頭と考えられる。14は12世紀初頭の瓦器碗で、楕葉型である。

まとめ

調査で検出した遺構は、湿地状の堆積層であった。この層には、平安時代前期(9世紀)の遺物が多量に含まれているが、共伴した瓦器片より、12世紀初頭に埋まったと推定できる。(川村・吉村)

2 右京八条二坊五町 (92H R283)

調査経過

下京区梅小路西中町36番地に所在する宅地で事務所新築工事が実施された。当地は平安京右京八条二坊五町及び八条大路に推定されるため遺跡確認調査を行った。

調査の結果、湿地堆積層、八条大路道路施設などの遺構を検出した。調査対象面積は195㎡で、調査期間は1992年11月12日から17日までの延べ3日間であった。

遺構 (図4)

調査で検出した遺構は、古墳時代前期から平安時代前期に至る湿地堆積土層及び平安時代前期後半から後期に及ぶ八条大路路面と同側溝である。

湿地堆積土層は地表下1m以下1.25mまでが暗灰色砂泥層で、1.35mに灰色粗砂の薄い間層を含む。以下1.7mまでが暗灰色泥砂層、2.4mまで暗灰色泥土層を確認している。灰色粗砂の間層より暗灰色泥土上層まで平安時代前期の土器、木製品を包含する。古墳時代前期の土器片は平安時代の堆積層中に混在して出土するが、本来は暗灰色泥土中及び下層域に包含されていたものと考えられる。

八条大路路面の整地層は地表下65cmから1mの間に4～5cmの層厚で5層を確認した。

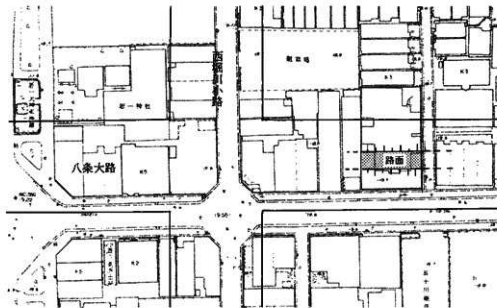


図3 調査位置図 (1/1,000)



図4 路面堆積層

各層はオリーブ灰色砂、オリーブ灰色粗砂、灰色砂礫、灰色砂泥、灰色泥砂に分けられる。灰色砂泥層には少量の炭片を、灰色泥砂層には小礫を混入する。各層は堅く締まっており人為的な舗装作業の行われたことを窺わせる。この路面は調査地中央に検出され、東西方向に延びると考えられる。推定八条大路幅24mのはほぼ中央に約5m幅で確認した。路面の層厚は中央で厚く、南北両端で薄くなる。南側には杭による護岸施設を持つ溝を検出した。幅50cm、深さ50cm以上を測り、埋土は暗灰色砂泥である。北側にも幅1m以上、深さ30~40cmのオリーブ灰色砂泥層の堆積する側溝を検出している。しかし杭などの護岸施設は検出されていない。

遺物

古墳時代前期の遺物は、庄内式併行期に属する土師器甕・高杯が出土した。それらは平安時代前期の堆積層である暗灰色泥土中・下層から出土した他、表面採集のものも少量ある。

平安時代前期の遺物としては、土師器皿・甕、須恵器杯・甕、黒色土器碗、灰釉陶器碗、木製品曲物底板、平瓦片がある。路面堆積層の下層である暗灰色砂泥層、灰色粗砂層、暗灰色泥土上層から出土した。

平安時代後期の遺物は八条大路北側溝から土師器皿片が出土した。12世紀後半の時期に属する。

まとめ

検出した道路施設は平安時代前期の遺物を包含する堆積層上に成立しており、平安京造営当初には右京八条二坊地区南側の八条大路は道路として成立していたと考えることはできない。数層に及ぶ路面堆積層内から遺物は出土せず、成立時期の上限を確定できないが、北側側溝から出土した12世紀後半に属する土師器皿片は側溝の埋没時期を示している。このため、前期後半から中期に成立し後期（12世紀後半代）に至って溝の埋没など道路としての機能を徐々に失い、上面が再び上流からの土砂によって覆われたものと言える。

湿地上に設定された道路施設例としては、同坊二町の調査で検出した西鞠負小路の道路施設があげられる^{※1}。これは今回検出した同じ湿地の北端付近に位置しており、平安時代前期の遺物を包含する湿地堆積層の上面に成立する。路面幅も推定小路幅12mの内、垣・犬走り・側溝部分を除いた路面幅9mを踏襲せずほぼ半減した4.5m弱である。規模は本調査で検出した路面幅に相似していると言える。八条大路は、大路推定ラインのほぼ中央に幅

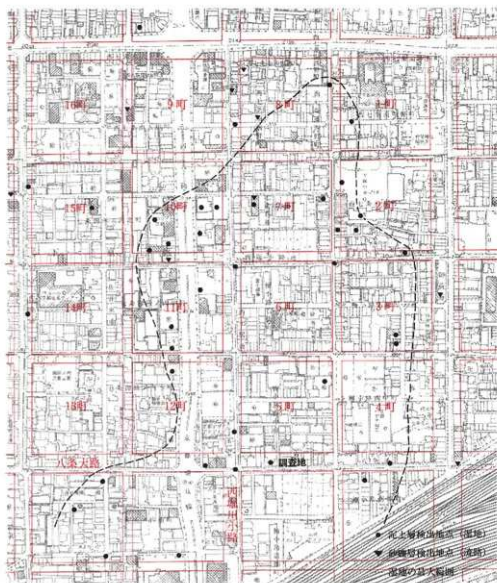


図5 右京八条二坊地区遺構分布図 (1/5,000)

約5mの1/4規模に縮小された路面として設定している。西鞠負小路でも推定ライン内の東側部分に1/2に縮小された路面として成立させている。本調査例も含めたこれらの事例は、湿地や軟弱な地盤に設定される道路施設にも規格の存在したことを想定できる好資料といえよう。

八条大路や西鞠負小路の路面を成立させている右京八条二坊地域の湿地堆積層の広がり
と範囲については、現在までの調査でその全容がほぼ推定できる^{註1}。調査で湿地堆積層を検出した地区は、二町西半、三・四・五・六・七町、八町南半、十・十一・十二町に及ぶ。また九条二坊の東北地域への広がりも確認されている^{註2}。

文献には、平安時代中期にあたる延喜年間(901-923)、平安京西市南方に「大池」があったと記録されている^{註3}。堆積土の下層から古墳時代前期の土器も出土しており、この一帯が平安京造営以前からの自然に形成された谷地形による池及び沼沢地であったことは間違いない。造営以前の地に流入する河川はその東北方面から複数条が現在までに確認されている。七条二坊の東南地区方向からと、八条一坊の西側中央付近に砂礫の堆積が検出されている。七条二坊方向からの流路は、五条二坊五町(現市民病院内)の調査で古墳時代中期の遺物を含む流路が検出されており連続する可能性がある。これらは造営以前の池に流入した河川跡と捉えることができよう。また池のほぼ中央南北に西堀川小路が設定されているが、西堀川小路は道路中央に四丈幅の水路と両サイドに二丈幅の通路が設置された大路幅の規模を持つもので、水路は造営時に開削整備されている^{註4}。造営事業によって旧来の流路を西堀川へまとめる河川整備等の水路の直線化が計られ、池からの排水が極めて容易になったものと推測される。この後池は水量の減少に伴って急速に灌漑され、平安時代初期からその湿地化を進め、中世以降は湿地に変貌していったものと考えられよう。(平田)

註1 「平安京右京八条二坊」『昭和60年度 京都市埋蔵文化財調査概要』京都市埋蔵文化財研究所 1988年

註2 「右京八条二坊」『昭和58年度 京都市埋蔵文化財調査概要』京都市埋蔵文化財研究所 1985年

註3 「平安京右京八条二坊(西市跡)」『京都市内遺跡立会調査概報平成3年度』京都市文化観光局 1992年

註4 【水薬師寺】『京都市の地名』『日本歴史地名大系』27 平凡社 1987年

註5 「平安京右京五条二坊」『平安京跡発掘調査報告昭和55年度』京都市埋蔵文化財調査センター 1981年

3 左京四条三坊十一町 (91HL367)

調査経過

中央区烏丸通錦小路上手洗水町659番地において事務所建築基礎工事に伴う調査を、1992年2月13日から15日の間に実施した。

当地は平安京左京四条三坊十一町に推定され、試掘調査が行われたが発掘調査には至らなかった。しかし、試掘時に平安時代の遺物などが出土しており、再度立会調査を実施した。

その結果、室町時代の土壌、鎌倉時代後期の井戸、水溜遺構、古墳時代・弥生時代の包含層などを確認した。

遺構 (図版17・18、図7～9)

No1地点では、地表下1.2mにて、幅2.4m以上・深さ1.4mの大きな土壌を確認した。埋土には大量の炭が入り、室町時代の土師器皿、陶器、白磁を採集した。

調査地の南西部分は遺構の残存状態が良く、No2地点では、地表下2.9mの灰色砂泥 (粘質層) から古墳時代の土師器高杯片、須恵器甕片を採集した。地表下3.1mにおいて幅1.7m以上、深さ25cmの落込みより弥生時代中期の細頸壺片、石鏃を採集した。地表下3.2m以下は無遺物層であった。また、地表下2.5mで、鎌倉時代の包含層・土壌、そしてこの包含層を切って作られた石組みの井戸と、この井戸から約2.2m南西のNo3地点で、水溜状の遺構を確認した。

井戸は、深さ1.3m以上、一辺の幅が95cm以上で、埋土より鎌倉時代後期の土師器皿、陶器甕、灰釉陶器、須恵器を採集した。

水溜遺構は上部を工事で削平され、地表下2.6mにて深さ20cmが残存する。これは、無遺物層の青灰色シルト層を南北約1.2m、東西約2.2mの長方形に掘り、ホゾ穴のついた柱等を割って板にした転用材で囲い、その内側に7本以上の杭を打つ。埋土より、鎌倉時代後期の遺物を採集した。また、大量の木製箸とともに、漆器類を採集した。さらに、折敷、膳の脚部、曲物の底板、鯛の骨、種子などを採集した。水分の多い暗灰色砂泥の埋土は木製品の保存に適していたようで、良好な状態のままで出土した。

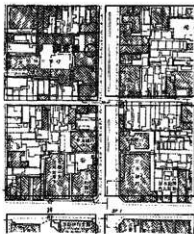


図6 調査位置図 (1/5,000)

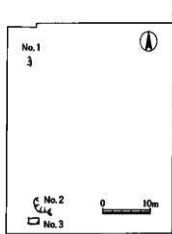


図7 遺構位置図 (1/800)

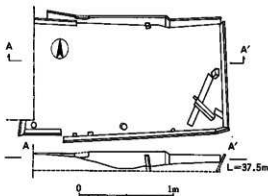


図8 No. 3地点水溜遺構実測図 (1/40)

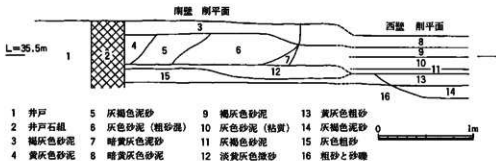


図9 No. 2地点遺構断面図 (1/40)

遺物 (図版19~20、図10・11)

今回の調査では各遺構から整理箱6箱の遺物が出土した。

水溜遺構からは、土師器、白磁、瓦器、漆器類、木製品が出土した。土師器皿(1~11)は、口径の大小などによっていくつかに分けることができる。3~11は口縁端部が断面三角形形状を呈する。2はいわゆるヘソ皿である。

白磁皿(12)は口縁部は直線的に外上方へのび、端部はさらに外反する。いわゆる口禿の白磁である。

瓦器羽釜(13)は体部がわずかに内傾する。

漆器類は皿(14~22)、椀(23)が10個体ほど出土した。皿は器壁が薄く高台をもたない径7.8cm前後のもの(18~20)と8.6cm前後のもの(21~22)、9.6cm前後で低い断面三角形の高台を引き出したもの(14~17)とがある。意匠には藤(18)、鶴(19・20)、瓜(15~

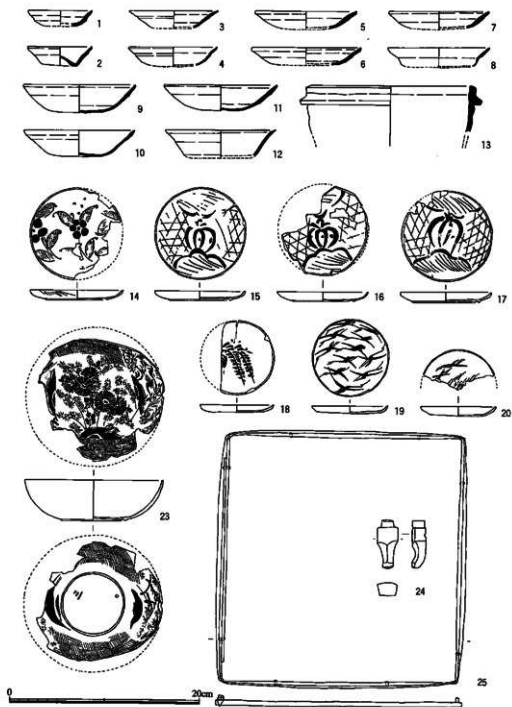


图10 遗物实测图 (1/4)

箸の度数分布表

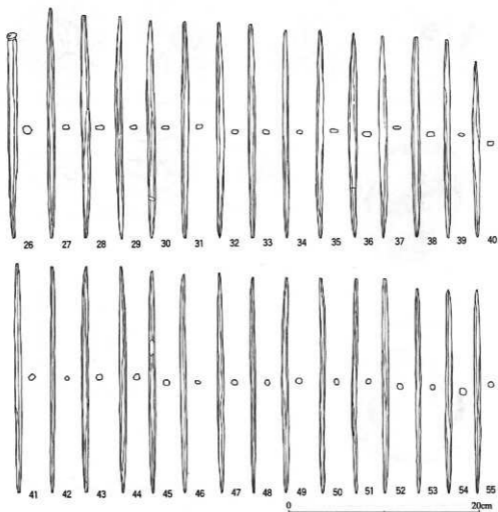
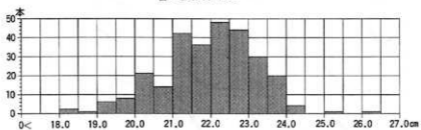


図11 遺物実測図 (1/4)

17) などが朱漆で描かれている。黒漆碗(23)も皿同様器壁は薄く、低い断面三角形の高台を引き出す。底部外面に線刻「三」がある。朱漆で菊などの紋様が描かれている。

木製品としては、膳の脚部・折敷・箸・曲物などがある。膳の脚部(24)は完形品で黒漆が塗られている。本体を支える脚の台部を丁寧な五面体に削り出し、その下に獣足様の脚足を弓なりに削り出している。上から見た平面形態は五角形を呈し、中心に膳本体と接合する円柱状の突起を削り出す。折敷(25)は一辺26.4cm×27.4cmの方形である。太さ4mmほどのひご状のものを巡らし、屈折部は内面に刻目を施して折り曲げ、各辺2箇所を樹皮で止め、縁としている。裏面には刃物痕が認められる。

箸(26-55)は1000本ほど出土しているが、形態により両端が尖り、平たいもの(27-40)と、片端のみが尖り、多角形のもの(41-55)に分けることができる。26は太く、一端が尖りもう一端には刻目が施されている。完形品は389本あり、長さは21-23cmのものが大半を占める(表参照)。

まとめ

工事区の大部分は建物基礎・地下室などで攪乱されていたが、一部で良好な遺構を確認した。北西部では室町時代の大きなゴミ捨て場を確認した。南西部では、弥生時代の落込みから石炭を採集し、また鎌倉時代後期の井戸と、水溜遺構を確認した。この水溜遺構は、井戸との距離関係や同時期の埋土、出土遺物などから、井戸に伴う沈殿槽としての水溜遺構である。沈殿槽からは土師器皿、折敷、大量の木製箸などとともに朱漆で絵の描かれた漆器皿・碗を採集した(巻頭カラー図版2参照)。(尾藤・竜子・伊藤)

4 左京四条三坊十一町 (92H L44)

調査経過

調査地は、中京区錦小路通室町東入占出山町311に所在する。当地に建物新築工事が計画されたため、工事に伴って調査を実施することになった。当該地は、推定錦小路と同北側溝及び烏丸綾小路遺跡に位置する。過去の付近での調査によると遺構の残存状態は良好であることが判明している。

今回の調査では、基礎工事に伴う杭打ち、並びに壁面の木板による土止めによって北側溝はすでに削平されていたが、掘削底面上で弥生土器を含む湿地状の東へ下がる落込みを検出した。そのため、この遺構の性格を明らかにすることに重点をおいて調査を実施した。調査期間は1992年4月27日から5月6日の間に計5回実施した。

遺構 (図13)

重機で地表下2 mまで一次掘削された面で遺構検出を行い、敷地東半中央部で灰褐色砂泥層を肩として、東へ緩やかに下がる湿地状の落込みを南北7.5 m以上、東西3 mにわたって検出した。この落込みの大部分は東隣敷地内に続いている。本来の湿地の規模は、4～5 m北側の東西断面で確認したところでは、粘土、砂礫層を肩口にして弥生時代の落込みより西へ0.5 m広がり深さも0.6～0.7 m深くなっていた。落込みの埋土は大別して、上層一粘土層、中層一泥土層、下層一砂または砂混層の3層に分かれる。弥生時代中期の土器が出土したのは中層からであり、土器の多くは肩口近くの傾斜面に、炭を伴って貼り付くように出土した。

遺物 (図版22、図14・15)

湿地状の落込みより弥生土器が整理箱に1箱出土した。弥生土器には壺(1・2・4)、甕(5・6・7)・器台(3)・台付鉢(8)・高杯(9)などの器形がある。1・2は口縁部が一旦反したのち

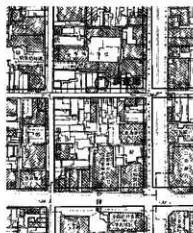


図12 調査位置図 (1/5,000)



錦小路通

図13 遺構位置図 (1/400)

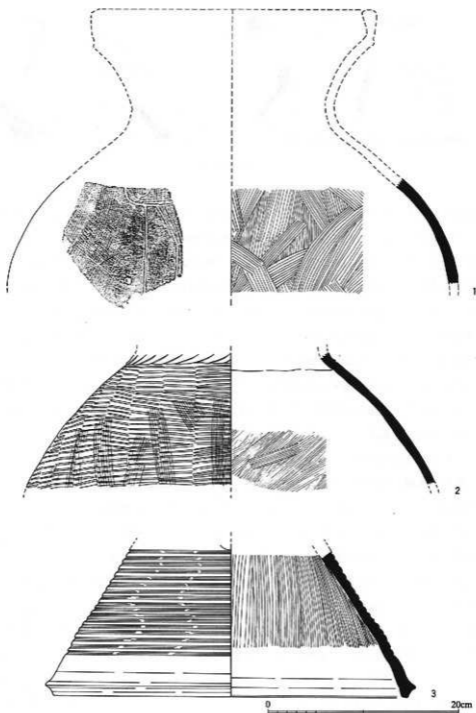


图14 遗物实测图 (1/4)

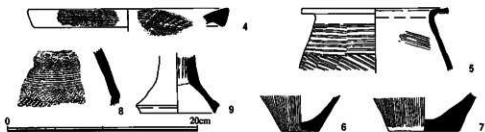


図15 遺物実測図 (1/4)

屈折して立ち上がる有段口縁の形式の大型広口壺である。1は、内外面とも粗い縦方向のハケメ調整を施す。外面には建物と考えられる線刻画が描かれている。2は、頸部にハケメ工具による押圧を施した突帯を貼り付ける。外面は叩き目調整の後縦方向の粗いハケメ調整、内面は斜め方向のハケメ調整を施す。4は口縁部が大きく外反し端部外面に種描な簾状文を施し、内面には髹描刺突文を施す。5は口縁部が大きく外反し、端部はわずかに拡張する。胴部外面は横・斜め方向の叩き目を施す。7は、底部外面に靱痕が認められる。3は鼓胴形を呈し、裾部径37cmの大型品である。外面は縦方向のヘラミガキの後、14条の凹線を巡らす。胴部と裾部の境界付近に凹孔を穿つ。8は、ソロバン形を呈する鉢の体部と考えられる。種描な髹描波状文、その下に髹描直線文・波状文を配し、胴部最大径下には髹描刺突文を施す。9は高杯の脚部で外面に縦方向のヘラミガキを施す。

これらの土器はそれぞれの特徴から、弥生時代中期後半の時期に位置づけられる。

線刻画土器について 今回の調査で出土した土器は、胴部の最大径が50cmをこえる大型広口壺土器の縦横13cmほどの破片である。胎土には角閃石を少量含む。破片の右半分には、斜線で描いた屋根があり、棟の端には渦巻き状の屋根飾りと棟持柱が描かれている。従来発見されている屋根は斜格子で表現されていることが多いが、斜線で表現されていることは注目される。建物を描いた土器は、全国で40数点出土している。屋根飾りが表現されている土器は、奈良県唐古・鏡遺跡で7例、清水風遺跡で1例知られているにすぎない。棟飾りをもつ例は、棟持柱付切り妻屋根建物と寄棟造屋根建物に限られ、これらの建物の格式の高さを表している。本遺跡の土器は大部分が欠損し、屋根上部の構造など不明な点が多い。しかし、京都の烏丸線小路遺跡で出土した意義は大きい。今後の調査・研究に期待する(巻頭カラー図版1参照)。

(伊藤・川村・竜子)

5 左京四条三坊十六町 (92HL268)

調査経過

中京区東洞院通三条下る三文字町227-1番地において店舗・住宅建築基礎工事の一次掘削、二次掘削に伴う調査を、1992年10月30日から11月11日の間に5回実施した。

当地は推定平安京左京四条三坊十六町の南東角で、東洞院大路と同西側溝の検出が予測された。調査の結果、室町時代後期の漆から土師器皿、包丁などを採集し、室町時代の土壌からは木製品などを採集した。

遺構・遺物 (図版23・24、図17~20)

一次掘削後、工事区東半分は地表下2.5mまで削平されていたが、No.2地点では2.5m以下の第7層を屑として西方への落込みを確認した。またNo.5地点では地表下3.2mまで削平されていたが、同じ落込みを確認した。結局、東洞院通りを西へ2.1m、地表下2.5mにおいて、幅5.1m以上・深さ1.2mの南北方向に延びる溝を確認したのである。埋土より室町時代の土師器皿(3)、青磁椀(4)、陶器皿(5)、瓦、骨、高杯脚部、箸、陶器火舎、完形の包丁(8)などが出土した。包丁は全長31cm、刃渡り18.6cm、刀高5.8cmで現代の菜切り包丁型をしているが、刃先は反り返っており古い形を示すものと考えられる。把手部分は木製の円筒形状を呈し、装着はくりぬき式で目釘痕などは認められない。また、漆確認のための清掃中に、残存長8cmの刀子片(7)を採集した。

地表下2.5~2.7mの第8層は、直径5~20cmの礫が多く、室町時代の土師器皿小片が出土することから、室町時代の漆に伴う路面と考えられる。その下の第9層の粗砂層からも室町時代の土師器皿小片が出土した。第11層も路面と考えられるが、遺物がみられず、時期は不明である。地表下2.9m以下の砂礫は無遺

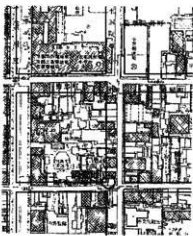


図16 調査位置図 (1/5,000)

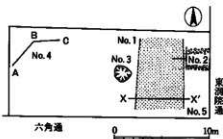


図17 遺構位置図 (1/40)

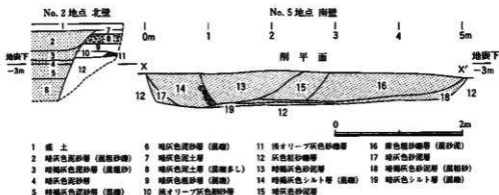


図18 遺構断面図 (1/60)

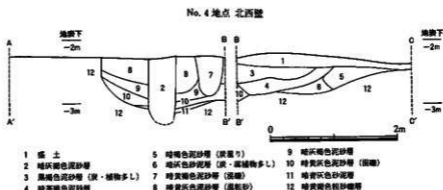


図19 遺構断面図 (1/60)

物層と考えられる。

これらのことから、室町時代後期には、現地表下2.5mにおいて東洞院通の路面があり、現在の通りを西へ2.1mの地点において幅5.1m以上、深さ1.2mの南北方向に延びる濠があったと考えられる。

さらに、工事区西のNo. 4 地点では、地表下2.3m以下の暗褐色粗砂礫の無遺物層まで削平されていたが、この土層を肩とした2箇所の落込みを確認した。落込み1 (土層番号8~11) は幅2.3m、深さ0.9mで、埋土より室町時代の土師器皿 (1・2)、青磁、瓦を採集した。また、落込み2 (土層番号3~6) は幅2.6m、深さ50cmで、埋土には炭・植物遺体が多く含まれ、室町時代の土師器皿、長さ22cmの木製箸 (9~11)、樽型をした径7.3cm、高さ5.9cmの木製の球 (6) を1個採集した。これは大陸伝来の籠杖の打碁の変化した碁杖

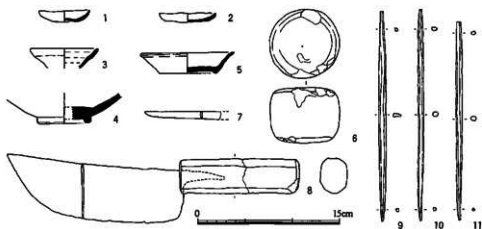


図20 遺物実測図 (1/4)

の毬と考えられる。毬杖は、源平盛衰記、平家物語に記録があり、年中行事絵巻、鳥獣戯画に描かれており、平安時代後期には京都でこの遊戯が非常に盛んであったという。

まとめ

敷地東側では、室町時代後期の南北方向の濠と東洞院通の路面を確認し、数層に分けられる濠の埋土からは、室町時代の土師器皿、刀子、包丁などを採集した。また、敷地北西部では、土壌から多量の炭と共に、振振の球を採集した。

当地周辺の発掘調査・試掘調査においても室町時代後期の濠状の遺構が確認されている。これらは当時の東洞院通沿いにあった防御のための「構」である濠の一部と考える。

(尾藤・伊藤)

註1 国史大辞典編集委員会編『国史大辞典』第四巻 吉川弘文館 1985年

註2 辻澤敏三・神奈川大学日本常民文化研究所編『新版絵巻物による日本常民生活絵引』第一巻 平凡社 1984年

6 左京八条三坊九町 (91HL385)

調査経過

下京区七条通烏丸西入東境町188番地において、店舗建築基礎工事に伴う調査を、1992年2月26日から28日の間に2回実施した。

当地は平安京左京八条三坊九町に該当し、敷地の北端では七条大路の路面と同南側溝の検出が予測された。調査の結果、8面以上の路面、4時期以上の重なりあう溝を確認した。

遺構 (図版25、図22・23)

敷地北端より南へ3mの地点では、地表下0.5～1.4mの間に8面以上の路面を確認した。路面土層No.2・4～6・13・15～17は厚さ2cm～15cmで、砂礫が混じり堅くしまっていた。しかし、土層No.7～12は砂礫は混入するが均質ではなく、路面敷きとは断定できない。また、土層No.5・6より鎌倉時代の土師器皿を採集したが、小片のため路面の時期は確定できなかった。

敷地北端から南へ3.6mの地点では、地表下1.2～1.9mにおいて、幅0.8～3mに及ぶ4時期以上の側溝(土層No.20～28)を確認した。土層No.20・21は幅75cm、深さ30cmで、埋土より鎌倉時代の土師器皿小片を採集した。土層No.22は幅70cm以上、深さ35cm

で、埋土より平安時代末期の土師器皿、高杯を採集した。土層No.23は幅95cm以上、深さ20cm以上で、埋土より平安時代後期の土師器皿、白磁椀を採集した。土層No.24は幅1.7m以上、深さ30cm以上で、埋土より土師器皿、須恵器を採集した。土層No.27は幅2.1m、深さ33cmで、埋土より平安時代末期の土師器皿、焼けた瓦を採取し、最下層の土層No.28は幅2.9m、深さ46cmで、埋土より平安時代後期から末期の土師器皿を採集した。土層No.30～33は無遺物層である。



図21 調査位置図 (1/5,000)

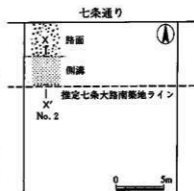
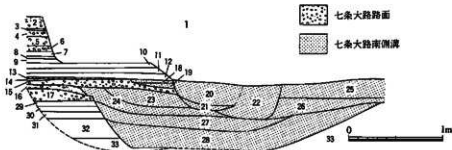


図22 遺構位置図 (1/400)

北から3m
X |-----| No. 2 東壁 |-----| 6m |-----| X'
L=29.3m



- | | | |
|------------------|-------------------|---------------------|
| 1 盛土 | 13 黄灰色泥砂層 (礫混) | 25 灰褐色泥砂層 (炭混) |
| 2 黄灰色粗砂礫層 | 14 黒褐色泥砂層 (礫混) | 26 褐灰色泥砂層 (炭混) (礫混) |
| 3 黄灰色砂層 | 15 暗緑灰色泥砂層 (礫混) | 27 黒灰色砂泥層 (礫混) |
| 4 淡黄灰色泥砂層 (礫混) | 16 茶灰色砂泥層 (礫混) | 28 暗灰色シルト層 (礫混) |
| 5 淡茶灰色砂泥層 (礫混) | 17 茶褐色礫層 (砂泥混) | 29 淡茶灰色泥砂層 (粘質) |
| 6 淡黄灰色砂礫層 (砂泥混) | 18 黄灰色砂泥層 (礫混) | 30 黄灰色細砂層 (無遺物層) |
| 7 暗黄灰色粗砂礫層 | 19 暗灰色砂泥層 (礫混) | 31 淡黄灰色砂泥層 (無遺物層) |
| 8 暗灰褐色粗砂礫層 (泥砂混) | 20 茶灰色砂泥層 | 32 暗黄灰色微砂層 (無遺物層) |
| 9 黄灰色粗砂層 | 21 黒色砂泥層 (炭層) | 33 黄灰色粗砂層 (無遺物層) |
| 10 暗灰色砂泥層 (粗砂礫混) | 22 茶灰色泥砂層 (粗砂混多し) | |
| 11 暗茶灰色砂泥層 (礫混) | 23 黄灰色砂泥層 (礫混) | |
| 12 灰褐色泥土層 (礫混) | 24 暗黄灰色泥砂層 (粗砂礫混) | |

図23 遺構断面図 (1/40)

遺物 (図版25、図24)

土層No.22から出土した8は、土師器皿で体部がかなり外傾し、外面に二段ナデを行っている。

土層No.23から出土した9は、土師器皿で一段ナデの後に口縁端部をわずかに内に曲げる。乳白色を呈する。

以下は、土層No.27・28から出土した。1～7・10は土師器皿で、11は瓦器碗である。1は口縁部に刻目を不揃いに入れる。乳白色を呈する。回転台を使用した白色土器に近い器形をもつ。2～4は口縁を「て」字状に折り返すもの。2はやや厚手。3は底部と体部の境がなく丸く立ち上がる。4は器高がきわめて浅い皿である。5はいわゆる受け皿状になるもので赤褐色を呈する。6は口縁を一度強く撫でた後、口縁端部を強く撫で返すものである。7は口縁を二度撫でる二段ナデで、乳褐色を呈している。10は二段ナデを施し、底部が上る。赤褐色を呈する。11は器壁がやや厚く口縁端部の内面に沈線を有する。見込み

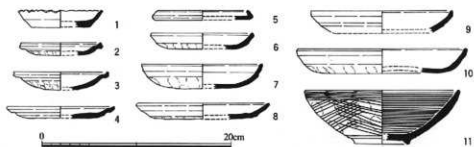


図24 遺物実測図 (1/4)

にはくずれた螺旋状の暗文、体部内面には細いミガキを施す。体部外面は粗く、斜め方向のミガキを施し、口縁部に横方向の丁寧なミガキを施す。12世紀初頭の桶栗型瓦器である。

まとめ

七条大路の路面とその南側溝を確認したが、路面については遺物が少なく、その時期は確定できなかった。

側溝からは平安時代後期から鎌倉時代の遺物が出土しており、その間4時期に渡って埋まった溝であると考えられる。

溝は、烏丸通りの東側の発掘調査で確認された側溝に続くものであろうが、最下層での溝幅は2.9mと東側の側溝より1mほど広がっていた。検出した側溝から南側の工事区では、明確な遺構は確認できなかった。
(尾藤・吉村)

7 左京八条三坊十五町 (91HL350)

調査経過

調査地は下京区不明門通木津屋橋下る東塩小路町576番地に所在する。当地は平安京左京八条三坊十五町にあたるため、事務所新築工事に伴う掘削に際して、1992年1月30日から2月3日の間に3回調査を実施した。

遺構

工事は掘削深2.3mの全面掘削であった。層序は地表下1mまで盛土、以下1.8mまで平安時代の遺物包含層である砂泥層が続き、それ以下は掘削深まで無遺物層の砂礫層であった。敷地北東部分を重機掘削中の断面で縦板、横棧を伴う一辺90cmの方形の井戸を確認した。井戸の上面は盛土直下の地表下1mから始まり、底面までの深さは1.2mであった。井戸の縦板、横棧の材は腐蝕が著しく、触れると崩落する状態であった。

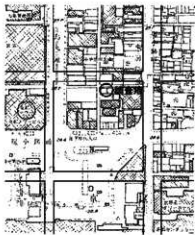


図25 調査位置図 (1/5,000)

井戸の上層は盛土直下の地表下1mから始まり、底面までの深さは1.2mであった。井戸の縦板、横棧の材は腐蝕が著しく、触れると崩落する状態であった。

遺物 (図26)

土師器皿は、小1・2(口径8~9cm)、中3(口径11cm)、大4~8(口径12~13cm)とに分類でき、体部を撫でた後口縁端部をやや内に内湾するものと、逆に外反させるものがある。鎌倉時代後期に比定される。9は兵庫県魚住産片口鉢で、内面はかなり摩滅している。やや瓦質である。この他に瓦器羽釜、布目瓦、緑釉陶器、須恵器采甕なども出土している。やや時期の古いものである。

(竜子・吉村)

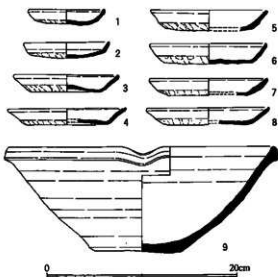


図26 遺物実測図 (1/4)

III その他の遺跡

1 御堂ヶ池古墳群 (91U Z 393)

調査経過

右京区梅ヶ畑向ノ地町一帯において、京都市埋蔵文化財調査センターの指導により公共下水道工事に伴う立会調査を実施した。当該地は、古墳時代後期に属する御堂ヶ池古墳群にあたる。当古墳群は山越北方の谷間にあった御堂ヶ池の両岸に営まれたもので、西側の丘陵尾根上に4基、丘陵斜面上に17基、東側の丘陵裾部に2基、丘陵尾根上に3基の、総数26基からなるものである。

調査の結果、消滅したとされていた2・5・19号墳の横穴式石室の一部などを発見した。立会調査は、1992年3月3日から7月1日まで実施した。

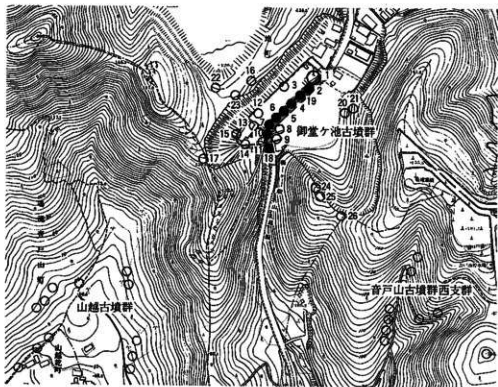


図27 調査位置図・古墳分布図 (1/5,000)

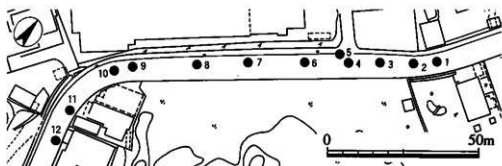


図28 調査位置図 (1/800)

遺構・遺物 (図版26・27、図29・30)

No.1地点東壁では地表下1.5~2.15mに旧御堂ヶ池の堆積とみられる暗灰色の腐植土層が位置しており、No.2地点においても地表下0.7~2mに黒褐色の腐植土層が堆積する。

No.3地点付近では詳細な観察を行ったが1号墳の周縁は確認することができなかった。

No.4地点西壁において地表下0.7~2.1mで現代盛土層直下に6段の石積みを検出した。この石積みは2号墳の横穴式石室の北壁の一部であると考えられる。現状では、6段まで残っており、高さは1.4mである。石室南壁は土止めの鋼板に遮られ確認することができず、床面は北壁基底部から60cmまで確認するにとどまった。床面には15cm前後の平らな石を敷いている。工事掘削面東壁では石室に使用していたと考えられる石材が一部崩れた状態ではあるが20数個検出した。この石積みはさらに南へ広がりを見せていたが土止め施設により全体を観察するには至らなかった。

その後、付帯工事の掘削が石室南壁推定地の部分 (No.5地点) で行われた。しかし、この掘削は石室南壁の裏込め側にあたり、さらに掘削深は基底部にまで及ぶものではなかった。このため石室の幅は確認することができなかった。しかし、この掘削で石室南壁は長さ約3.35mにわたって検出され、最上段の石積みは地表下0.45mに位置していることが確認された。

出土遺物は、床面上で土師器長頸壺の体部片が出土したのみである。

No.6地点西壁では地表下0.6~1.8mの位置で現代盛土層下に石積みを検出した。この石積みは19号墳の横穴式石室の一部であると考えられる。石室北壁の石は高さ90cm、幅90cmを測り、地山を掘込み小さな石を入れた上に据えられたものと思われる。石室南壁の基底部の石は高さ80cmである。石室内の埋土には、石室に使用されていたと考えられる石材が

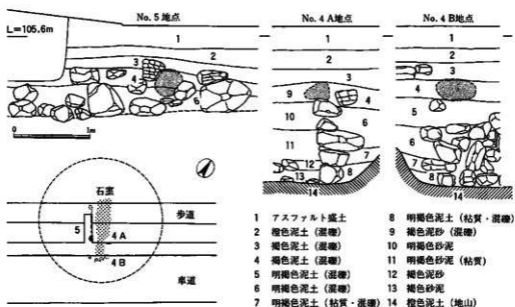


図29 遺構断面図 (1/50)・模式図 (1/300)

転落している。床面に敷石は確認できない。掘削面東壁でも石の抜き取られた痕跡が確認されている。

No.7地点では地表下0.45~1.4mの位置で多数の割れた石材を含んだ暗褐色砂泥層を幅3.25mの範囲にわたって検出した。この位置は4号墳の推定地にあっている。

No.8地点西壁では地表下0.6~1.2mの位置で2段の石積みを検出した。石室北壁と思われる石積みは高さ30cm、幅30cmほどの大きさの石材を2段検出した。石室南壁と思われる石積みは高さ40cm、幅50cmの石材を2段目に積んでいる。掘削面東壁では地表下0.5~1.1mの位置で石積みを検出した。石室南壁と思われるこの石積みは4段まで確認できる。これらは5号墳の横穴式石室の一部と考えられる。

No.9地点では地表下0.3~1.5mの位置で割れた石材を含む茶黄色砂泥層を検出した。この地点はすでに発掘調査された6号墳の位置である。

No.10地点では地表下0.3~1.7mの位置で割れた石材を含む茶色泥砂層を検出した。この地点は7号墳の推定地にあたる。

No.11地点では地表下1.1~1.4mの位置で西壁に割れた石材を含む暗黄灰色砂泥層を幅2.7mの範囲にわたって検出した。この位置は10号墳の推定地付近と思われる。

No.12地点では地表下35~80cmの位置で西壁に径20~40cmの大きさの割れた石材を多く含

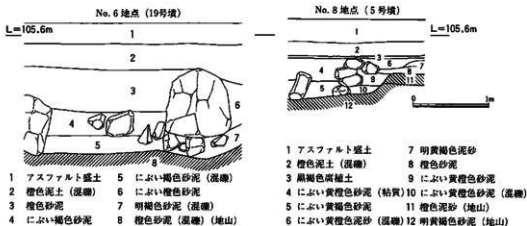


図30 遺構断面図 (1/50)

む明橙色砂泥層を幅3.5mの範囲にわたって検出した。この位置は18号墳の推定地にあたっている。

まとめ

御堂ヶ池古墳群は直径約30mの1号墳と直径約8～15mほどの小型円墳25基の総数26基で構成されている。1954年に11号墳が同志社大学によって発掘調査されたのを始めとし、1964年から1965年にかけては6基（6・12・13・14・15・17号墳）が宅地造成・道路敷設工事に伴い京都府教育委員会により発掘調査された。1973年には御堂ヶ池が埋め立てられ、20号墳が六勝寺研究会により発掘調査されている。1982年に群中で最大規模の1号墳、1984～85年には21・26号墳が発掘調査されており、現在までに総計11基の発掘調査が行われている。

調査地はすでに1964・65年の宅地造成・道路敷設工事に伴って旧地形をまったく留めないものとなっており、そのため以前の京都府の調査報告では、今回の調査対象の1～7・10・18・19号墳は消滅したものとされていた。公共下水道敷設工事による掘削は調査対象古墳の中央部付近を次々と断割るかたちで掘り進んでいった。

2号墳の横穴式石室側壁は、北壁の基底部と南壁の最上段の石材から7段まで残っていると考えられ、高さは1.65mである。石材の大きさは、最下段及び2段目に比べ、3段目はやや大型のものを使用している。側壁の石積みは本古墳群内の他の古墳と同様に持ち送りの手法がみられる。これは小さな石のみを用いて石室を構築する際、必然的に用いられる手法であろう。以前の調査において1号墳を除いて本古墳群内の面袖・片袖式石室の羨

道部床面幅は1m前後であり、無袖式石室の床面幅も1m前後であることが判明している。2号墳の石室の床面幅は現状では1m前後と考えられ、このことから石室の形式が有袖式か無袖式かは判断することができない。さらに、現状では南壁の裏込め側と、工事掘削面東壁で検出した石積みから石室全長は4.85mまで確認することができた。内部構造が判明している御堂ヶ池西側の8基は、石室開口方向はいずれも東南東から南にかけて限定されており、2号墳についても石積みの方向から南東方向と考えられる。これは地形的な制約によるものであろう。

遺物は石室床面上で土師器片が出土したのみで、長頸壺の体部の一部と思われる。これは1号墳の調査で出土しているものに類似する。

5号墳は2段から4段の石積みが検出され、その状況から南方向に開口する横穴式石室の基底部は残存しているものと思われる。

19号墳はやや大きい石材が地山を掘込んで据えられており横穴式石室基底部は残存しているものと思われる。

4・7・10・18号墳の推定地点では径20~40cmの大きさの石材片を多く含む土層を幅2.7~3.5mの範囲にわたって検出した。これらの古墳は全壊しているものと考えられる。

以上が今回の調査で明らかとなった。しかし、工事掘削深が地表下4mにまでおよび、調査にさまざまな制約があり、墳丘を構成する封土の十分な観察や確認にまでは至ることができなかった。
(小椋山)

参考文献

- 『京都市道跡地図台帳』京都市文化観光局 1986年
- 『御堂ヶ池群集墳発掘調査概要』『埋蔵文化財発掘調査概報 1965』京都府教育委員会 1965年
- 京都大学考古学研究会編『嵯峨野の古墳時代』1971年
- 上原真人『御堂ヶ池群集墳第20号墳発掘調査報告 1973』六勝寺研究会 1974年
- 北田栄造・丸川義広『御堂ヶ池1号墳発掘調査概報 昭和57年度』京都市文化観光局 1983年
- 北田栄造・丸川義広『御堂ヶ池古墳群・音戸山古墳群発掘調査概報 昭和60年度』京都市文化観光局 1986年

2 法興院跡 (92RT229)

調査経過

中央区新鳥丸通竹屋町上る梅ノ木町133-1番地において倉庫建築基礎工事に伴う立会調査を、1992年10月2日から10月12日の間に4回実施した。

調査の結果、平安時代後期から鎌倉時代に至る東西溝、室町時代の多量の土師器皿がほぼ完形のまま埋められた土壌を確認した。

遺構 (図版29、図32～34)

No.1地点では明確な遺構は存在しなかった。

西端のNo.2地点では、上部と南半分がすでに削平されていたが、地表下1.1mにおいて深さ80cm、幅1m以上の落込みを確認した。埋土より、平安時代後

期の土師器皿、白磁碗、鉄製品、砥石などを採集した。この中で、特異な出土状況を示す土師器皿群があった。それらは、1枚の土師器皿の上に2、3枚の小皿を蓋をするように伏せて置かれていたもので、このようなものを落込みの底部の60cm四方の中で4組採集した。

東端のNo.4地点では、地表下0.5mにおいて、深さ1.3m、幅1.1m以上の落込みを確認した。埋土は5層に分けられ、上層の第1層からは鎌倉時代の土師器皿、陶器甕を採集し、最下層の第5層からは平安時代後期の土師器皿、瓦器碗・盤を採集した。

No.2とNo.4地点の落込みは、その間を攪乱されていたが、地表下0.5mにおいて深さ1.3m、幅1.1m以上の規模で東西に続く溝と考える。出土遺物からみて、平安時代後期から鎌倉時代にかけて数時期にわたって埋まった溝で、法興院関連のものと考えられる。

中央北部のNo.3地点では、地表下1.5mま

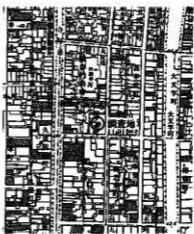


図31 調査位置図

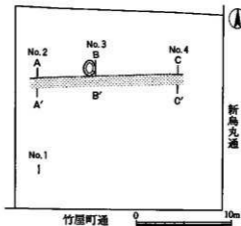


図32 遺構位置図 (1/400)

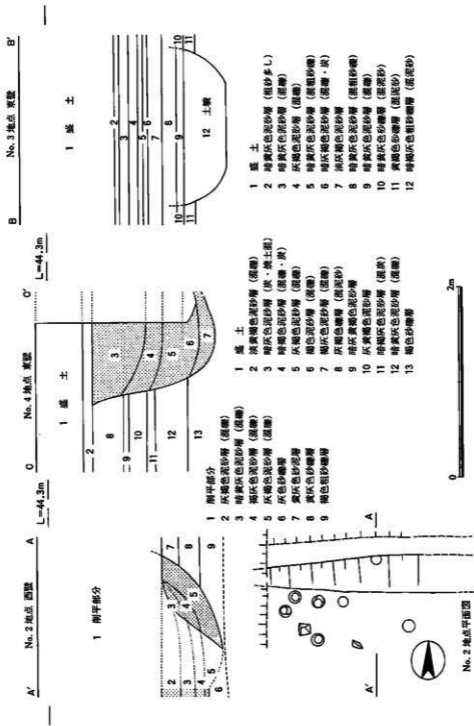


図33 邊構断面図・平面図 (1/40)



図34 No 2 地点遺物出土状況・模式図

で削平されていたが、その面より南北1.7m、東西1.4m、深さ45cmが残存する土壌を確認した。粗砂礫の埋土と共に多量の室町時代の土師器皿が完形のまま投棄されていた。大部分は土圧のために粉々にひび割れていたが、中から10個の完形の皿を採集した。

遺物（図版29・30、図35～38）

図36の土師器（1～18）はいずれもNo 2 地点より出土し、4組に分かれていた。その重なり方はA（1～3）、正位3の大皿の中に逆転した1・2が重ねられていた。B（4～6）は、正位6の大皿の中に正位した4・5が重なっていた。C（10～14）は、正位14の大皿の中に逆転した11～13がありさらに正位した10が重なっていた。D（7～9）は、正位した9の中に逆転した7・8が入っていた。

15～18の小皿は分散して出土した。

大皿（3・6・9・14）は、口径14.2～15.6cm、口縁は二段ナデされ、口縁端部は丸くおさめる。色調は赤褐色を呈している。

小皿（1・2・4・5・7・8・10～13・15～18）は、口径が9.4～9.8cm、口縁は二段ナデされ、底部が丸みをもつものと、少し持ち上がっている二種が認められる。いずれも周縁の片方が浅くなる。遺物の時期は平安時代後期に比定できる。

図37の出土地点は、19～40がNo 3 地点の土壌からの一括品で、41～57はNo 4 地点から出土している。

19～34は土師器皿である。19は、受け皿状の皿で、口径は9.2cm、褐色を呈している。20～22は、口径が10～10.8cm、口縁はやや外反して立ち上がる。白い胎土である。23～25は、いわゆるへソ皿と呼ばれるもので底部を指で押し上げている。口径は6.4～7.0cmの間に入り、

口縁部が外反した後に立ち上がるものと、外反せずに直線的に立ち上がるものと二種類がある。26～34は白色系土器に属する。26・27は、底部を指で押し上げていない。口径は8.0cm、きわめて白い胎土である。28～30は、口縁が8～10cmで、体部より口縁への立ち上がりの途中でやや外反するものと、丸いふくらみを持って立ち上がる2種類が認められる。31～34は、口径が11～12cm、体部から口縁への立ち上がりの途中で少し外反する。口縁横ナデの下には圧痕を多く残しているが、非常に丁寧な作りである。

36は、白色土器の高杯の一部である。杯部取り付け部の稜は、やや不鮮明であり、脚部のミガキは乱れて統一性がない。杯部の見込みに丸いくぼみがある。

35は、半球形つまみ状の突起をもつ器形と考えられる。円形の直径は3.4cmあり、胎土は砂質で、白色土器の類に入る。

37は、須恵質で、口径は28cm、内面に七条の条線を入れる。初期の備前擂鉢である。

38は、瓦器の羽釜で、羽部を厚く張り付けている。外面は指圧痕が残り、良く焼かれている。内面はハケによる調整痕が見られる。

39は、いわゆる口禿の白磁皿である。

40は、短辺6.4cm、厚さ1.8cmの小型の石製硯で、中央部は使用が激しくかなり磨り減っている。材質は緑色を呈する砂質粘板岩である。



図35 No.2地点 出土土器A

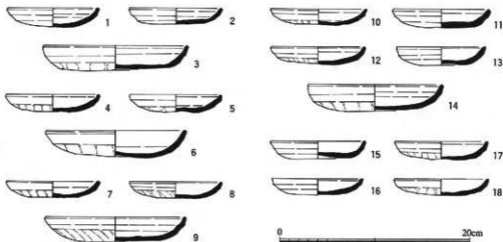


図36 遺物実測図 (1/4)

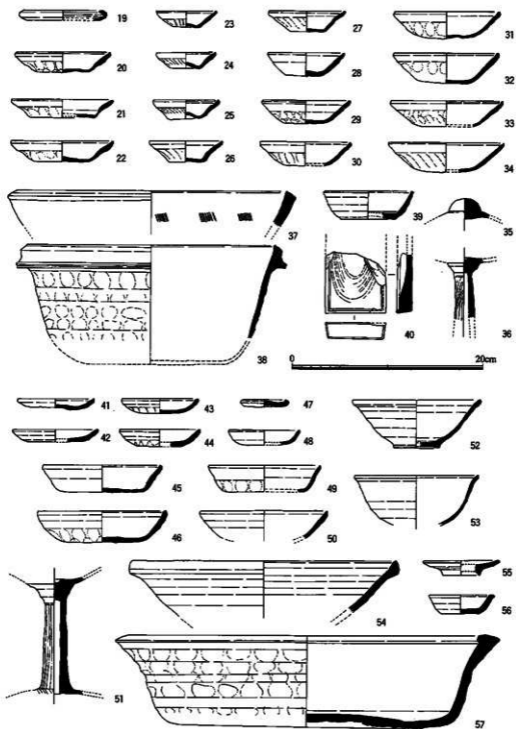


图37 遗物实测图 (1/4)

41~44は、口径が8~8.4cmの土師器小皿で、褐色系土師器である。口縁を二度ナデしており、器壁がやや厚い。45・46は、口径が12.4~13.4cmの大皿に含まれるもので、いずれも褐色系土師器である。45は、底部からの立ち上がりは、外反しながら立ち上がりそのあとやや内に曲がるもので、46は、内に湾曲しつつ立ち上がる。47は、口径4.6cmの受け皿状土師器皿で、褐色系土師器に含まれる。

48は、口径7.2cmの小皿で白色系土師器である。49・50は、口径が11.6~13.2cmで、白色系土師器の大皿である。口縁部の立ち上がりに外反するものと、しないものとの二種類がある。

51は、白色土器の高杯で、脚部はヘラミガキが縦方向に見られ、杯部の取り付け部に一つの稜が付く。

52は、山茶碗の破片で、高台は張り付け高台で、その端部に靱痕が認められる。

53は、口禿の白磁碗で、底部は欠損する。

54は、口径27.6cmの兵庫県魚住産の須恵器鉢で、13世紀中頃と考えられ、瓦質で口縁は五縁状で、端部は立ち上がる。

55は、灰釉陶器の小皿の小片で、復原口径は8.0cmである。56は、口径が6.8cmの灰釉陶器の小皿で完形品である。底部は回転糸切りである。

57は、口径40cmの火舎の類で、底部には、稲藁痕が明瞭に付き、体部には指圧痕が並ぶ。口縁及び、内面は丁寧に回転ナデを施している。

以上の遺物群を編年的にグルーピングしてみると次のようになる。No.3地点の土壌(19~40)は、一括品と認めてよく15世紀前後に入るものと思われる。No.4地点の落込みは、最下層(46・54)は、12世紀末頃を考えている。中・上層(41~45、47~53、55~57)は少し混入物があると思われ、14世紀前半から中頃と考えられる。

58は、複弁蓮華文軒丸瓦で、No.3地点の土壌より出土した。瓦当部の直径は約10cmと小

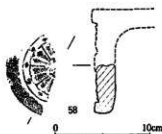


図38 軒丸瓦拓影・実測図(1/4)

さく、欠落した中房部に「十」字の陽刻がある文様で、外区の現存する珠文には全て范傷が確認できる。周縁から外周に掛けてはナデ調整を行い若干の丸味を持たせ、瓦当裏面は指ナデ調整を行っている。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好、黄橙色を呈する。同范と思われる瓦が^{№1}広隆寺旧境内から168点、^{№2}醍醐寺境内、^{№3}相国寺旧境内からも出土している。

まとめ

東西溝は、平安時代後期から鎌倉時代に埋設したものである。意図的であると思われるNa2地点で出土した4組の数枚重ねの土師器皿については、過去の調査において数例見られるが、その意味は明確にはされていない。地鎮祭などの祭祀のためのものとも考えられるが、いずれにしても儀式的な要素を感じる。

Na3地点の土壌は、大量の土師器皿がほぼ完形の状態で埋まっており、何らかの儀式に使われたのちに捨てられた土器捨て場と考えられる。

「法興院は990年から1148年まで記録に出るが、廃絶の時期は明らかではない。」とある。また場所も3案が考えられているが確定されていない。今回の調査地は現在の遺跡地図の範囲からすこし西に外れており、遺跡の範囲を再考する必要がある。今後、周辺地域の調査に期待される。

(尾藤・竜子・吉村・吉本)

註1 『常盤仲ノ町集落跡発掘調査報告』財京都市埋蔵文化財研究所 1978年

註2 『醍醐寺境内地に於ける埋蔵文化財発掘調査概報』『埋蔵文化財発掘調査概報集』鳥羽雄宮跡調査研究所 1976年

註3 『同志社女子大学心和館増築予定地の発掘調査』現説資料 同志社女子大学 1977年

註4 【法興院跡】『京都市の地名』『日本歴史地名大系』27 平凡社 1987年

3 珍皇寺旧境内 (92R T240)

調査経過

東山区小松町594-2において住宅建築基礎工事が行われた。

当地は、現在の珍皇寺北門から約50m北側に位置し、珍皇寺旧境内にあたる。1992年10月16日から始まった土留め工事に伴う調査では多量の飛鳥時代の瓦などを含む土壌を確認した。その後も施工業者の協力を得て、同月27日まで延べ6日間にわたって調査を行った。

調査地は、平坦な敷地であるが、南面の東西道路は東から西へかなりの傾斜で低くなっている。工事は最初、北側と東側の隣地境界の土留め工事と、その後敷地全体の地表を約1.2m削平して西端の道路と同じ高さにする工事であった。六道珍皇寺は、付近の六波羅密寺と共に鳥辺野葬地の入口に位置し、六道(冥界)への入口とされ、精神世界では重要な寺であった。旧寺域については確定されておらず、定点となるべき遺構の発見が待たれる。

遺構 (図版31、図40・41)

敷地の北西部では、地表下40cm以下は粘土の無遺物層で、この土層を肩として土壌3基と一部に包含層を確認した。地表下37cmにおいて幅13cm、深さ40cmの土壌から緑釉陶器小片、土師器、瓦を採集し、地表下55cmにおいて幅30cm以上、深さ15cmの土壌からは罫目・格子目タタキの平瓦、軒丸瓦、土師器甕などを採集した。さらに、地表下45～62cmの包含層からは瓦、須恵器を採集した。土壌SK7は、地表下40cmで検出。東西幅2m以上・深さ40cmで、北側は敷地外に延びるため全容は不明である。埋土から多量の白鳳時代の瓦、平安時代前期の土師器などを採集した。

北東部では、地表下40cmで幅1.8m、深さ70cmの南北溝SD11を確認した。しかし遺物は採集できなかった。

東部で検出した井戸SE8は、一辺が2.2mの方形で、深さは2.2m以上ある。埋土より鎌倉時代後期の土師器皿とともに須恵器、瓦、曲げ物などの木製品の他、幅25cm、長さ2.2



図39 調査位置図 (1/5,000)

mの井戸枠などを採集した。

溝SD5は東西溝で、敷地中央やや北寄り
りで検出した。検出長は約10mで、幅80cm、
深さ64cmあり、肩口よりほぼ垂直に落ち込
む。埋土より、14世紀中頃の土師器皿を採
集した。この溝は、西方の敷地中央で突然
途切れる。

溝SD6は東西溝で、溝SD5の南側で
これに平行する。幅60cm、深さ14cm。長さ
6mを検出した。

柱穴P1～4は、東西方向に一列に並ぶ
方形の柱穴である。柱間は、西から3.4m、
3.9m、2.7mである。対となる柱穴は発見
できなかった。

柱穴P9は、円形で時期は不明。

土壌SK10は、遺物が少量のため時期は
不明である。

遺物 (図版32・33、図42)

1～6は、14世紀中頃を中心とする土器群で、へソ皿と大・小2種類の皿がある。い
ずれも褐色系土師器に属し、1～3は排土より、4は溝SD5より、5は井戸SE8より、
6は西端の土壌より出土した。

7は、a手法で調整され、口縁端部は内にわずかに肥厚する。胎土は赤褐色を呈する。
土壌SK7より出土した。

8は、須恵器の蓋で、やや軟質で灰白色を呈す。土壌SK10より出土した。

9は、緑釉陶器碗の底部で、外底部には糸切痕が見られ、輪高台は内に段をつくる。近
江産である。溝SD6より出土。

10は、灰釉陶器の皿で、外面口縁近くに明瞭な稜をもつ。釉は内面と外面の稜部まで施
す。井戸SE8より出土した。

11は、灰釉陶器碗で、溝SD5より出土した。

12は、土師器甕で、表面はかなり摩滅する。胎土は砂質で雲母を含み、赤褐色を呈する。

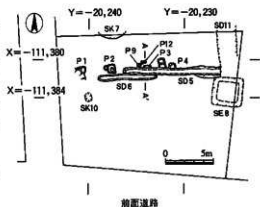


図40 遺構位置図 (1/400)

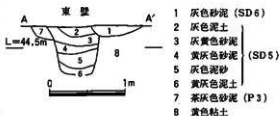


図41 遺構断面図 (1/50)

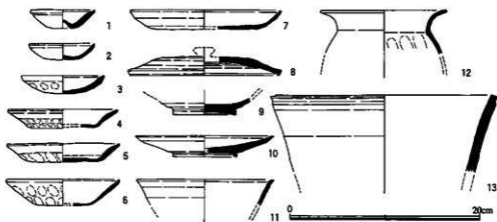


図42 遺物実測図 (1/4)

柱穴P9より出土した。

13は、鉢型器形の須恵器で口縁部外面に強い指ナデを施す。軟質で外面が淡灰色、内面が黄白色を呈す。土壌SK10より出土。

以上を整理すると、1～6は、14世紀中頃、7～11・13は9世紀前半に属し、12は、飛鳥時代に属する。

瓦はほとんどが土壌SK7から出土した。年代を考える上で重要な瓦当面の発見はなかった。しかし、格子目叩きのある平瓦が多数あり14～19はいずれも桶巻作りである。格子目はやや細いものと粗い2種がある。布目部には桶板痕が見える点は共通している。格子叩き目は過去に出土例のある三重弧文軒平瓦の額に打たれたものと共通することから、少なくとも白鳳期の瓦であるといえる。20・21は縄目の叩きを施したもので、布目部に圧痕はなく一枚作りである。おそらく奈良時代のものであろう。

まとめ

珍皇寺は『御堂関白記』の1004年(寛弘元年)3月14日条に「珍光寺」とあって、珍とも宝とも言える表記になっている。『伊呂波字類抄』には「珍皇寺愛宕寺(後略)」とあり、郡名寺院であったとも言われている。現在の境内には、小野篁がまつられており、この寺の皇になったとも伝えられている。さらに山代淡海等によって鎮護国家、黎民の利益のために草創した所とある。東寺の末寺になって久しく、400余年たった、890年(寛平2年)、960年(天徳4年)の二度に渡って、堂塔、僧房、宝蔵等を焼亡した。この時に公験と流記帳もことごとく焼けてしまったため、新公験を立券した事情を伝えている。この後も、焼

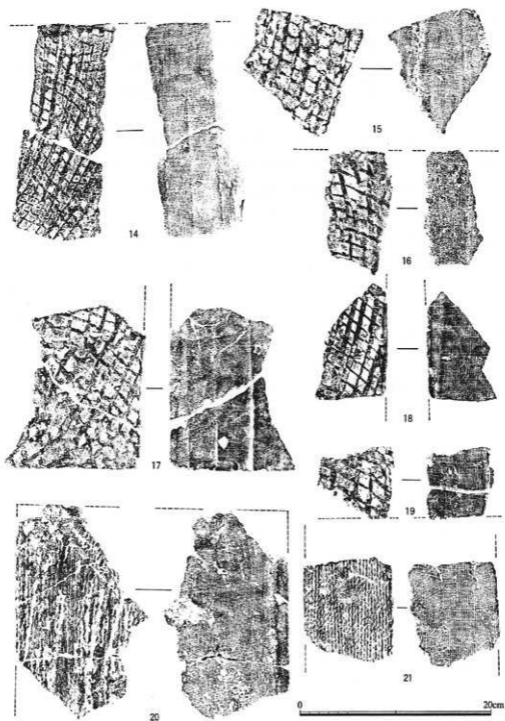


图43 瓦拓影图 (1/4)

亡・再建を繰り返す、南北朝時代頃には衰退していたらしい。この寺が、葬地鳥辺野のはずれにあたることと、小野篁の伝説（死後、間廬庁における第二の冥府）と結び付くことによって、六道詣の風習を生んだ。そのため、この寺は現在に至るまで、民衆の信仰を集め、生き残ったものと思われる。境内には合わせて48寺があり、寺地は広大であったと言われている。

今回の調査で知り得た事実は、最も古い柱穴P12からは飛鳥時代の遺物が出土し、土壇SK7からは、重弧文軒平瓦と同じ格子叩きを持つ白鳳期の瓦群と9世紀代の土器が出土したこと、14世紀中頃（室町時代前半）の溝があることなどである。これらを併せて考察すると、次のようになる。

寺は白鳳期に建立され、9世紀に至って焼亡、山代淡海により平安時代に再建され、又、焼亡・再建を繰り返す、室町時代前半に建仁寺の末寺に組み入れられ現在に至っているとされる。さらに、郡名寺院としての愛宕寺（オタギデラ）の記載もあることから、珍皇寺の前身寺院は、オタギデラと考えても良いと思われる。この寺が衰亡していたのを平安時代に再建したのが珍皇寺であったと言えよう。

（尾藤・竜子・吉村）

註 『平城宮発掘調査報告IV』奈良国立文化財研究所 1966年

4 深草坊町遺跡 (92FD79)

調査経過

調査地は伏見区深草東伊達町85番地に所在する。住宅建築工事に際して、当地周辺は、飛鳥時代から奈良時代の集落跡である深草坊町遺跡にあたるため、調査を行った。

当地北東の京都市東部農業指導所事務所建物工事に伴う発掘調査では、縄文時代から中世にわたる遺物包含層、川跡、土城、柱穴等を確認しており、当地でも遺構等の検出が期待された。

調査は1992年5月29日に実施した。

遺構・遺物 (図版34、図45~48)

工事掘削は地表下32cmまでの布掘りであった。層序は盛土、耕土以下すぐ遺構面となる。検出した遺構は、無遺物層の褐色泥砂を切り込む幅0.8~1.0m、深さ15~20cmの南北方向の溝で、検出長6.72mである。この溝は北は隣接地へ続くが、南は途中で消滅する。この溝の下層から幅85cm以上、深さ37cmの落込みを検出するが、断割りによる断面観察のため形状は不明であった。落込みの埋土は上層の灰褐色泥砂層と下層の褐色粗砂層の2層に分かれる。溝の埋土の暗褐色泥砂層より平安時代後期の土師器皿(5~8)・高杯・甕、瓦器羽釜(10)、多量の瓦、その他に須恵器、黒色土器、灰軸陶器の破片も出土した。落込みからの遺物は上層より平安時代前期の土師器皿・杯・甕(9)、緑釉陶器壺、須恵器、瓦が出土した。その他両方の遺構ともに飛鳥時代の遺物(4)が混入していた。



図44 調査位置図 (1/5,000)

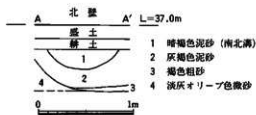


図45 遺構断面図 (1/40)

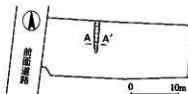


図46 遺構位置図 (1/800)

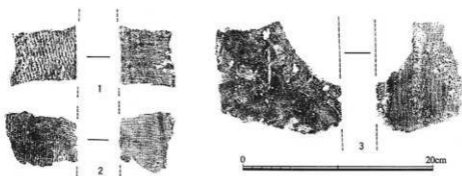


図47 瓦拓影図 (1/4)

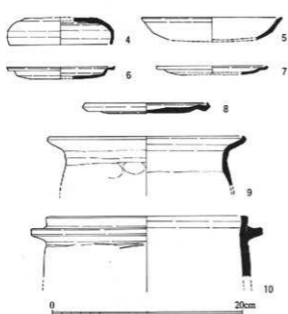


図48 遺物実測図 (1/4)

瓦類はいずれも平瓦の破片である。1は縄目のタタキを粗く残し、布目もよく見える。2は縄目タタキ跡を軽く撫でている。布目は鮮明である。3は縄目タタキをきれいに削っており、布目は極めて細い。奈良時代から平安時代前期にみられる特徴をもっている。

まとめ

今回の調査で検出した遺構は、南北方向の溝と落込みのみで、遺構の性格付けは困難である。

しかし、瓦の出土状況と周辺の深草寺・貞観寺・嘉祥寺等の平安時代前期の寺跡を考え合わせると、

当地にも平安時代前期から後期頃の寺院関連施設が存在したことをうかがわせる。現地形は調査地より南が一段低く、北は平坦になっている。このことも含め、周辺の調査が進めば遺構の性格がより解明されていくものと思われる。

(電子・吉村)

5 向島城跡 (91FD152・161・311・349, 92FD190)

調査経過

伏見区向島地区に京都市下水道局が、木津川流域関連向島処理分区向島公共下水道工事計画により下水道管を布設することになり、京都市埋蔵文化財調査センターの指導により掘削工事に伴う立会調査を実施した。調査地は向島ニュータウンより北側、太閤堤の上を通る旧奈良街道の本町通りより東側と向島東中学校東側の南北方向の排水路より西側の範囲であった。

調査区は周知の遺跡、向島城跡にあたる。従来の周辺の立会・試掘調査は面積、件数ともに少なく、向島城に関連する明確な遺構・遺物は検出されていない。現状では、現地形のわずかな高まりと町名の本丸町、二ノ丸町によって、かすかにそれと知られるだけである。

調査は京都市埋蔵文化財調査センターの梶川敏夫氏作成の資料を基に、明治、大正の古い地図を参考にし、近隣の居住者の方から御教示をいただきながら掘削工事に併せて立会調査を進めた。調査は、91FD152は1991年7月31日～1992年3月31日の期間に計28箇所、91FD161は1991年8月7日～1992年2月4日の間で計41箇所、91FD311は1991年12月20日～1992年2月6日の期間に計5箇所、91FD349は1992年2月4日～6月25日の期間に計25箇所であった。92FD190は1992年8月31日～11月12日の期間に計3回立会した。

遺構・遺物 (図版35～38、図50・51)

調査区南側の91FD152、91FD161はそれぞれ向島二ノ丸町の東半分、西半分にあたる。明治、大正頃の地図を参照すると、二ノ丸町の辺りは周囲を池や濠に囲まれた横長の長方形の島状の陸部となっている。そしてその陸部の中に2箇所の池がみられる。現地形では陸部南側の落込みが、向島ニュータウン北の東西方向の排水路北の住宅地北側の東西道路沿いに残存している。その他の落込みは現状では確認できないが、道路、敷地境界などで推定できる。

実際の調査で確認できた落込みは、断面番号152-3・7・13・26、161-6・19・21の7箇所であった。152-3・7は陸部内の東の池の西肩口、北肩口の位置にあたる。152-13は二ノ丸北側東濠の北肩口にあたるが、152-3・7より時期が古いと思われる。152-26、161-19は二ノ丸南濠の北肩口、161-6は二ノ丸西張り出し部の西濠南肩口にあたる。161-21は二ノ丸陸部内の西の池の北東肩口にあたる。

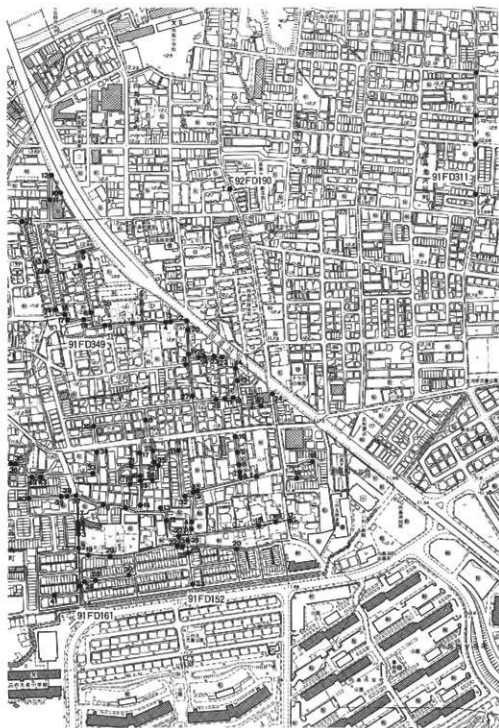


図49 調査位置図 (1/5,000)



图50 向島城推定图 (1/5,000)

湿地、池状堆積層を検出した断面は、152-1・2・18・19・20・25・27・28、161-13・22・23・28-30・35-38で、埋土のみであるが掘削深以下に可能性がある断面は152-6、161-8・10・18であった。これらの地点は大正期の地図の池の部分にあたる。

流れ堆積層を検出した断面は、152-11・12・23、161-1-4・24-27・31-34であった。これらの地点は大正期の地図以前の堆積層と考えられる。

上記以外の地点は二ノ丸とその周辺の陸部にあたると思われる。

明治、大正期の地図にも載っている、二ノ丸の中央部で折れ曲がりながら東西に横断している道路部分の立金（152-15-17、161-9・11・12）では、盛土以下地表下0.7～1 mまでの間に2～7層の整地層、路面を検出した。調査地点は計69箇所であった。

調査区北側で国道24号線より西側の向島本丸町西半部にあたる調査（91FD349）では、349-10で北へ下がる落込みを検出した。落込みは落ちが二つあり、一度作り変えられている。349-16・17では層序の相違からみて、2地点の間に北西へ下がる落ちが推定できる。

349-13-15では水平堆積に近い流れ堆積層を検出した。これらは、本丸西側の濠部分の可能性がある。

349-21では西向きに推進掘削工事中、機械が石材にあたり工事が一手中断された。機械の到達地点に立坑を掘削し地下の状況を確認したところ、背後に集石を伴い上に板を乗せた北西から南東方向の杭列を検出した。現状でも排水路が同じ地点を同方向に走っており、排水路に伴う施設と考えられる。

その他の地点は、土層の堆積状況から考えてすべて本丸の陸部にあたると思われる。その中で土層中より石材を検出した地点が、349-1・18・25の3箇所あった。1では立金時すでに60×40×厚さ15cmの花崗岩質の板状のもの1個、60×25×厚さ25cmの砂岩質の河原石1個の計2個が掘り上げられていた。工事関係者の話では、1の西側の岸上宅前にて地表下1 mで出土したとの事であった。18では地表下1.33 mで、38×35×厚さ20cmの花崗岩質の石が平らな面を上にして座った状態で出土した。22では地表下0.51 mで、151×24×厚さ34cmの長方形の花崗岩質の石材が横たえられた状態で出土した。石材の下には厚さ6～9 cmの2面の整地層があった。この石材の西端より25.5 m西の349-25では地表下0.6 mで北へ下がる東西方向の落込みを検出した。この落込みは銅前宅東側敷地境界で北へ折れ曲がっていた。

国道24号線より東側の地区の調査（91FD311、92FD190）では、91FD311はすべて推進工事のための立坑掘削の調査であった。層序はすべて掘削深まで盛土、耕土以下流れ堆

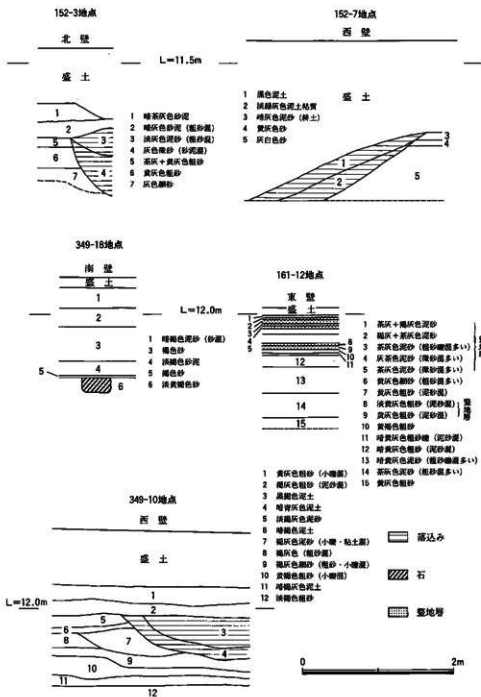


図51 土層断面図 (1/50)

積層であった。

92FD190では、出土時点で立会えなかったが、工事関係者によると地表下4mで南方向に推進工事中機械が障害物で停止したので、停止地点で立坑掘削をしたところ、機械は北面する東西方向の石垣の上端に当たって停止していた。その石垣の上一列を取り除いたが、まだ下方に続くとの事であった。取り上げた石材は、完形のもの1個(1)、取り除くとき破砕された大きな石材片1個(2)とそれに伴う破片、石垣の大きな石材の間にかませた多数の河原石であった。

1は大きさ110×70×厚さ40cmの平らな三角形のおむすび形をしていた。側面の一つに墨書が3文字あり、当研究所杉山信三、木村捷三郎両氏の鑑定により、「美河」「二」と判読できた。2は大きさ70×35×30cmで、こちらの石材にも側面に墨書があり、「下」のように読めた。両材ともに石を割り出したときのくさび痕があった。

その後同地点での立会調査では、石垣の南側にて多数の20～30cm大の河原石が推進工事により掘り上げられた。これらは石垣の裏込め石の可能性もある。遺物は、調査区内の流れ堆積層、包含層、土壌などから出土しているが、量は少なくしかも小片のため、時代を推定するにはいたらなかった。

まとめ

今回は向島城の縄張り範囲を明確にすることに主眼をおいて調査を実施した。併せて城内の構築物の遺構等の検出を期待した。

検出した土層の状況は、大別して近現代に埋め立てられた池、濠内埋土層、盛土をしたと思われる均質な粗砂層、氾濫、流路等で砂、泥土が互層になった流れ堆積層に分かれた。

埋土層は、明治・大正時代の地図に記載されている池にあたる。粗砂層は城を構築するための盛土にあたり、この範囲に本丸、二ノ丸等の城の縄張りがあったと考えられる。

流れ堆積層がどの時代にあたるのか、現時点では明らかにできなかった。向島周辺は豊臣秀吉が横島堤、太閤堤を作る以前は、東から宇治川が丘陵部を横断し、宇治付近で低地に流出し、北からの山科川とともに直接巨椋池に向かって網状にあるいは蛇行して流れ、向島、横島などの中州を形成していたと思われる。江戸時代以降でも稲葉家文書『月堂見聞集』によれば、10数回の洪水記録がある。さらに明治以降も度々洪水を記録している。特に明治18年、29年の洪水では同じ向島庚申町付近の堤防が決壊している。この時、本丸町の北側は土砂で覆われている。

従来の調査で石垣等の城関連施設が検出されなかったのは、伏見城同様石垣が徹底的に

取り壊され移築されたものと考えられる。その他に、大正時代の地図を詳細にみれば現存の本丸町辺りに方形に海拔18mの等高線が引かれている。豊後橋南詰めの堤防上の海拔は17.13mと書かれている。比較すれば、本丸町周辺の土地は大正11年頃までは太閤堤より高く残存していた。現在では本丸町の最高地点は海拔13.5mである。その間に本丸町の高まりは削平され、現在の地形に改変されてしまったことも一因しているであろう。今回地表下4mで発見された石垣は、基底部のみが残存したものである。

以上の洪水回数多き、出土遺物の少なさ、旧地形の改変等が向島城の縄張りの復原と時代の特定を困難にしている。

今回の調査では、向島城の輪郭を明確にはできなかったが、地表下4mでの石垣の発見を考えると、今後も慎重な調査が望まれる。

(竜子)

註1 仮製二万分の一地形図「淀」参謀本部陸軍測量部測量局 明治二十三年測量

註2 三千分の一「向島」・「木幡池」京都市土木局都市計画課 大正十一年測図 昭和十年修正測図

註3 「巨椋池沿岸洪水氾濫図」「巨椋池干拓誌」巨椋池土地改良区 1962年

調査一覧表

I 1991(平成3)年度 1～3月期

平安宮 (HQ)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
大藏	上・七本松通中立売下る三軒町地先	2/26-3/19	検出できず。	H Q 387	3
#	上・仁和寺街道七本松東入一番町93-6	3/4	盛土のみ。	H Q 396	3
#	上・淨福寺通中立売下る菟丸町184	3/9-13	検出できず。	H Q 401	3
園書寮	上・下長者町通七本松西入黒地町234-2	1/16	盛土のみ。	H Q 317	3
鏡殿寮	上・淨福寺通下長者町上る坤高町59	3/4	盛土のみ。	H Q 395	3
左近衛府	上・出水邊松黒町西入西天祥町155	3/23	盛土のみ。	H Q 418	3
中和院	上・下立売通千本西入福薬町451-5	2/18	盛土のみ。	H Q 374	3
葉の松原	上・下長者町通六軒町西入利生町295-1	1/16・20	検出できず。	H Q 316	3
内匠寮	中・西ノ京左馬寮町21-1	2/24	盛土のみ。	H Q 382	3
典薬寮	中・西ノ京車坂町4-3	1/17・20	盛土のみ。	H Q 319	3
#	中・西ノ京車坂町4-3	1/28	盛土のみ。	H Q 346	3
豊楽院	中・東楽廻西町184	1/20・21	地表下0.42mにて江戸の包含層。	H Q 328	3
隆陽寮	上・千本通二条下る東入主税町985	3/11	盛土のみ。	H Q 409	3
宮内省	上・竹屋町通日暮西入四町目802-29	2/12・13	検出できず。	H Q 359	3
右馬寮	中・西ノ京右馬寮町8-14	2/28-3/7	検出できず。	H Q 390	3
彈正台	中・西ノ京内堀町24	1/21・22	地表下0.1m以下、時期不明の溝、包含層。	H Q 333	3

平安京右京 (HR)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
一条大路	上・一条通七本松西入東町32	3/30-4/3	検出できず。	H R 429	5
北辺三坊六町	北・大符車坂田町33-4	2/15・17	地表下0.2mにて盛町の土壌。	H R 370	4
二条二坊五町	中・西ノ京笠殿町 西ノ京児童公園	2/25-3/7	検出できず。	H R 386	5
四条一坊二町	中・壬生天地町1-7	2/14	盛土のみ。	H R 369	9
四条一坊八町	中・壬生天地町40	2/13	検出できず。	H R 355	9
四条二坊五町	中・壬生仙念町23	3/4・5	地表下0.64mにて時期不明の土壌。	H R 397	9
五条二坊四町	中・壬生仙念町地先	3/17-1/29	地表下0.81m以下、平安の包含層。	H R 411	9
五条二坊十六町	右・西院糞町5-1	1/24・28	地表下0.74mにて平安の遺物を含む七住井川の東側、数本の枕、平安後期の井戸。	H R 343	9
六条二坊一町	中・壬生東高田町地先	1/20	攪乱のみ。	H R 323	9
六条二坊三町	下・西七条東御前田町地先	1/22	巡回時、工事終了。	H R 340	9
六条二坊十二町	右・西院東中水町12	2/14	検出できず。	H R 368	9
七条二坊十三町	下・西七条北衣田町36	1/16・20	地表下0.66m以下、平安中期～後期の湿地状堆積。本文3ページ。	H R 318	9
八条二坊二町	下・西七条石井町 七条幼稚園	1/10・13	地表下0.15mにて湿地堆積の肩部、平安の南北溝。	H R 315	13
八条三坊七町	下・七条御所ノ内西町 西大路小学校	2/4	検出できず。	H R 352	12
九条三坊五町葛原地	南・吉祥院三ノ吉町120	1/17-2/18	検出できず。	H R 322	12
九条三坊十町	南・寶祥院西ノ庄西中町46	3/11・13	検出できず。	H R 410	12
九条四坊一町	南・吉祥院宮ノ東町地先	2/12-17	検出できず。	H R 354	12

平安京左京 (HL)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査№	図版
一条大路	上・一条通土屋町東入伊勢殿橋町269-1	3/10	巡回時、工事終了。	H L 405	6
二条二坊 七町	中・西竹屋町地	1/20	地表下1.2mにて江戸の包含層。	H L 329	6
二条三坊 五町	中・衣通堀奥川下る整大恩寺町739-1	2/24	検出できず。	H L 379	7
二条三坊十二町	中・両替町通二条上る北小路町112	2/12・3/2	地表下2.28mにて桃山の窪地堆積。	H L 361	7
二条三坊十五町	中・三本木町～瓦之町地先	11/11～3/2	地表下0.3m以下、時期不明の東洞院大路路面、落込み、平安中期の包含層。	H L 267	7
二条四坊 二町	中・東洞院通竹屋町上る三本木町446	3/13・17	地表下1.78m以下、東洞院大路路面、平安前期の池状堆積、室町の包含層。	H L 406	7
二条四坊 八町	上・京都御苑	8/20～2/4	地表下0.88m以下、平安後期の包含層、落込み、時期不明の路面。	H L 174	7
三条一坊 八町	中・西ノ京北院町 中京中学校	2/18・26	盛土のみ。	H L 375	6
三条二坊十一町	中・御池通・堀川一鳥丸通	12/3～2/15	地表下0.63m以下時期不明の焼土層、平安末期・室町の包含層、壁地層。	H L 290	6
三条三坊 二町	中・釜座通小路下る下松屋町720地	3/30～5/11	地表下1.89mにて室町の包含層、窪地状落込み。	H L 424	7
三条三坊 三町	中・御池通西洞院下る三坊西洞院町572	2/17・18	地表下1.09m以下、室町・桃山の包含層。	H L 372	7
三条三坊 八町	中・二条通室町西入大恩寺町234	3/2	盛土のみ。	H L 391	7
四条一坊 七町	中・壬生馬場町22	2/10	地表下0.25m以下、平安前期・江戸の包含層、時期不明の落込み。	H L 358	10
四条二坊 一町	中・三条通熊鷹西入御供町302	3/31・4/2	地表下1.7mにて時期不明の池状堆積。	H L 427	10
四条三坊 二町	中・西洞院通増築路上る池坂町408-3	1/31・2/5	地表下0.2m以下、江戸の包含層。	H L 351	11
四条三坊十一町	中・鳥丸通錦小路上手洗水町659地	2/13・15	地表下1.22m以下、弥生～室町の包含層、落込み、井戸。本文9ページ。	H L 367	11
四条四坊十五町	中・寺町通六角下る式部町248	2/17・3/6	地表下0.91m以下、平安後期～室町の包含層、平安後期の落込み。	H L 371	11
五条一坊 六町	中・壬生相合町50-3	1/21・27	検出できず。	H L 331	10
五条二坊 四町	下・高辻通大宮東入杉樋子町660	2/28・3/5	地表下0.48m以下、鎌倉～室町、室町～桃山の包含層。	H L 388	10
五条二坊十三町	下・東中筋通高辻下る舟屋町672-3地	3/10・17	地表下0.72mにて室町の包含層。	H L 402	10
五条三坊十一町	下・仏光寺通室町東入釘廻町251-2地	2/12	地表下1.38m以下、室町の包含層、室町の土壌。	H L 362	11
*	下・高辻通鳥丸西入骨屋町321-1	3/13	地表下1.11mにて室町の包含層。	H L 408	11
五条三坊十五町	下・仏光寺通鳥丸東入上柳町334	1/23・28	地表下0.86m以下、平安後期・室町の包含層、時期不明の落込み。	H L 342	11
五条四坊 四町	下・高倉通高辻下る萬能屋町504	1/8・16	検出できず。	H L 314	11
五条四坊 七町	下・仏光寺通柳馬場西入東前町418地	2/28	盛土のみ。	H L 389	11
五条四坊十六町	下・寺町通四条下る貞安前ノ町613	1/24	地表下0.53mにて時期不明の路面、平安後期・江戸の包含層。	H L 344	11
六条一坊 四町	下・中堂寺坊城町	2/12	地表下0.94mにて鎌倉の包含層。	H L 360	10
六条一坊十四町	下・中堂寺坂之内町地先	2/24～3/10	地表下0.26m以下、時期不明の包含層、落込み。	H L 384	10
六条三坊 九町	下・鳥丸通松原下る五条鳥丸町406	1/20	盛土のみ。	H L 330	11
六条三坊十六町	下・鳥丸通松原下る五条鳥丸町412地	2/19	地表下1.53mにて平安後期～鎌倉の包含層。	H L 376	11

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査№	図版
六条四坊十六町	下・寺町通松屋下の榎松町720	3/31	地表下1.9m以下、時期不明の包含層。	H L 428	11
八条一坊 三町	下・観音寺町6-11	1/21-3/11	検出できず。	H L 327	12
八条二坊 一町	下・大宮道・七条通～堀小路通	3/17～26	地表下0.56m以下、時期不明の包含層、路面。	H L 416	12
八条三坊 一町	下・新町通七条下の東堀小路町593	1/22	巡回時、工事終了。	H L 339	13
八条三坊 九町	下・烏丸通七条西入東堀町188	2/26・28	地表下0.88m以下、平安の七条大路路面、溝。本文20ページ	H L 385	13
八条三坊十五町	下・不明門通堀小路上る東堀小路町576	1/30-2/3	地表下1.15m以下、平安前～中期の包含層、鎌倉の井戸。本文23ページ。	H L 350	13
八条三坊十六町	下・烏丸通堀小路上る東堀小路町734	3/16・17	地表下1.28m以下、鎌倉・時期不明の包含層。	H L 413	13
※	下・東洞院通七条下の堀小路町512	3/31	地表下1.1mにて時期不明の窟と思われる石造遺構、枕山の包含層。	H L 430	13
九条二坊 三町	南・西九条南小路町 九条中学校	1/22	巡回時、工事終了。	H L 336	12
九条三坊十三町	南・東九条烏丸町23	3/10	地表下0.45m以下、鎌倉～室町の土壌、平安末期の包含層。	H L 404	13
九条四坊 五町	下・東九条河西町地先	6/28-1/20	地表下0.32m以下、鎌倉の包含層、落込み。	H L 108	13

太秦地区 (UZ)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査№	図版
円乗寺跡	右・龍安寺塔ノ下町2-1	3/27	検出できず。	U Z 426	
音戸山古墳群	右・鳴鶴音戸山町他	9/17-5/1	径40～60cmの石材出土。	U Z 255	
御堂ヶ池古墳群	右・梅ヶ畑内ノ地町地先	3/3-7/1	地表下0.6mにて古墳の石室。本文24ページ。	U Z 393	
双ヶ丘中学校内遺跡	右・花園岡ノ本町 双ヶ丘中学校	2/5-5/19	地表下0.3mにて時期不明の焼土層を含む土壌。	U Z 353	
東衣手町遺跡	右・西家福西衣手町地先	2/24-4/2	地表下1.12mにて木片炭を多量に含む溝。	U Z 383	

洛北地区 (RH)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査№	図版
植物園北遺跡	左・松ヶ崎西山町地先	7/19-3/7	検出できず。	R H 131	
※	左・下鴨南芝町51-1	3/22・27	地表下0.2mにて時期不明の包含層。	R H 332	
※	左・下鴨南茶ノ木町3-3	7/23・24	検出できず。	R H 341	
※	左・下鴨染田町36	1/27・30	検出できず。	R H 345	
※	北・上賀茂畔勝町4	1/17・21	検出できず。	R H 373	
岩倉忠在地遺跡	左・岩倉忠在地町 洛北中学校	1/23・25	地表下0.6mにて時期不明の包含層。	R H 417	
※	左・岩倉花園町629-1	2/26-31	盛土のみ。	R H 422	
紫野斎院跡	上・大宮通寺之内上る三丁目北神ノ町520	3/4・6	地表下0.7mにて時期不明の土壌、柱穴。	R H 394	
北野遺跡	北・北野西白梅町6-1	3/5-9	地表下0.03mにて時期不明の土壌。	R H 398	

北白川地区 (KS)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
沖殿町遺跡	左・修学院沖殿町 修学院小学校	3/19	検出できず。	KS 414	
延勝寺跡	左・岡崎成勝寺町地内	3/17	攪乱のみ。	KS 415	14
岡崎遺跡					
得長寿院跡	左・岡崎徳成町28	1/16	検出できず。	KS 321	14
岡崎遺跡					
白河街区跡	左・岡崎東福ノ川町地内	1/16~27	攪乱のみ。	KS 320	14
法成寺跡	上・寺町通広小路下る東極町21	3/25	検出できず。	KS 421	

洛東地区 (RT)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
中区遺跡	山・柳辻番所ヶ口町21-2	1/27	盛土のみ。	R T 347	
"	山・東野森野町地先	2/14	攪乱のみ。	R T 366	
"	山・勧修寺西栗栖野町21-1	2/20	検出できず。	R T 378	
"	山・東野舞台町59-7	2/24	盛土のみ。	R T 381	
"	山・西野山中園町地先	3/3・9	検出できず。	R T 392	
珍島寺旧境内	東・清水五丁目他地内	1/22	巡回時、工事終了。	R T 337	
法住寺殿跡	東・本町八丁目89-2	1/22	巡回時、工事終了。	R T 338	
法住寺殿跡	東・茶屋町地先	3/25-5/15	地表下0.32m以下、江戸以降の路面、時期不明の包含層。	R T 420	
"	東・妙法院前街町446	1/17	盛土のみ。	R T 324	
六波羅政庁跡	東・常盤町地先	3/23・24	検出できず。	R T 419	
法性寺跡	伏・深草開土町他地内	3/12-23	検出できず。	R T 407	

伏見・醍醐地区 (FD)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
伏見城跡	伏・唐匠町33	1/17・20	地表下0.8mにて時期不明の落込み。	F D 325	
"	伏・桃山町金津出雲8	2/7	表土下0.4mにて時期不明の落込み。	F D 356	
"	伏・上油掛町203他	2/7・26	検出できず。	F D 357	
"	伏・東堀町681	2/20	地表下0.7m以下、江戸の土壌。	F D 377	
"	伏・桃山町水井久太郎官有地	2/25-3/4	地表下0.24mにて時期不明の整地層。	F D 380	
"	伏・豊後橋町83	3/9	検出できず。	F D 403	
向島城跡	伏・向島本丸町地先	7/31-3/31	地表下1.171m以下、向島城の濠の落込み。本文43ページ。	F D 152	
"	伏・向島本丸町地先	8/7~2/4	地表下1.1m以下、地状の落込み。本文43ページ。	F D 161	
"	伏・向島本丸町地内	12/20-2/6	地表下0.65m以下、流れ堆積。本文43ページ。	F D 311	
"	伏・向島本丸町地先	2/4-6/25	地表下0.21m以下、時期不明の包含層、落込み、路面。本文43ページ。	F D 349	

鳥羽地区 (TB)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
鳥羽 離宮跡	伏・中島北ノ口町4-2	1/21	盛土のみ。	T B 334	15
"	伏・竹田内畑町123-B	1/21	盛土のみ。	T B 335	15
"	伏・竹田藪川町6	3/6	盛土のみ。	T B 399	15
"	伏・中島宮ノ前町29-9	3/27	地表下1.15mにて時期不明の包含層。	T B 425	15
深草遺跡	伏・深草西浦町六丁目71-1	2/12・17	地表下0.86mにて時期不明の東西方向の流路。	T B 363	

南・桂地区 (MK)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
松室遺跡	西・松室北河原町地先	12/2-1/30	検出できず。	MK283	
"	西・松室中溝町地先	1/20	盛土のみ。	MK326	
"	西・松室中溝町地先	3/6-4/13	地表下0.85m以下、時期不明の包含層、流路状堆積。	MK400	
中久世遺跡	南・久世殿城町294-3	1/30	地表下0.7mにて時期不明の溝。	MK348	
"	南・久世中久世町五丁目70-1	3/17	検出できず。	MK412	

長岡京地区 (NG)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
長岡京跡	伏・久我南の宮町地内	12/16-4/22	検出できず。	NG305	
"	伏・羽東師斐川町247	2/12	検出できず。	NG364	
"	伏・羽東師斐川町246	2/12	検出できず。	NG365	
"	伏・羽東師古川町255-1他	3/27	盛土のみ。	NG423	

II 1992(平成4)年度 4~12月期

平安宮 (HQ)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
大 藏	上・仁和寺街道土屋町東入西富仲町465	4/15・16	検出できず。	HQ24	3
"	上・中立売浄福寺東入新刺屋町421	5/1	盛土のみ。	HQ50	3
"	上・千本通一乗下る西入西中筋町19-53	5/20・21	盛土のみ。	HQ70	3
"	上・中立売通千本東入丹波屋町366-1	6/12-19	検出できず。	HQ101	3
"	上・千本通一乗下る西入中筋町19-86	6/29	巡回時、工事終了。	HQ122	3
"	上・仁和寺街道六軒町西入四番町	8/20・21	検出できず。	HQ173	3
"	上・七本松通仁和寺街道上る一番町92	8/27-29	検出できず。	HQ181	3
"	上・上長者町通千本西入五番町170	10/27	盛土のみ。	HQ264	3
主 殿 敷	上・裏門通一乗下る今新在家町206-9	9/4・7	地表下0.5mにて時期不明の包含層。	HQ196	3
"	上・裏門通一乗下る今新在家町206-14	12/1	地表下1.24mにて時期不明の包含層。	HQ299	3

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査№	図版
内 教 坊	上・中立光通日暮東入新白水丸町454-1	4/16・20	盛土のみ。	HQ25	3
"	上・日暮通中立光下る須洪池町247	5/19	盛土のみ。	HQ67	3
"	上・松屋町通中立光下る神明町440-12	6/5	盛土のみ。	HQ91	3
"	上・日暮通上長者町上る須洪池町571-10	9/22	盛土のみ。	HQ220	3
"	上・松屋町通中立光下る神明町440-8	12/16	盛土のみ。	HQ316	3
"	上・松屋町通中立光下る神明町440-9	12/16	盛土のみ。	HQ317	3
"	上・松屋町通中立光下る神明町440-10	12/16	盛土のみ。	HQ318	3
右 近 衛 府	上・御前通下立光上る西上之町265	7/30	盛土のみ。	HQ162	3
"	上・下長者町通七本松西入風鳴町388-18	10/19	盛土のみ。	HQ249	3
国 書 寮	上・下長者町通七本松西入風鳴町239-9	5/8・11	検出できず。	HQ54	3
掃 部 寮	上・下長者町通六軒町西入利生町294-33	7/6	盛土のみ。	HQ133	3
内 藏 寮	上・上長者町通千本東入受染町486-3他	12/14	盛土のみ。	HQ311	3
織 殿 寮	上・下長者町通裏門西入神高町86-3	4/13・14	検出できず。	HQ119	3
"	上・土屋町通下長者町上る山王町511-7	6/10・11	盛土のみ。	HQ98	3
内 裏	上・出水通智恵光院西入田村備前町241	5/15・19	盛土のみ。	HQ61	3
"	上・出水通智恵光院西入田村備前町240-10	8/26・27	盛土のみ。	HQ178	3
内 裏 外 郭	上・下立光通千本東入中務町490-25	12/24	盛土のみ。	HQ321	3
中 和 院	上・下立光通千本西入龍藏町465-1他	7/7-8/25	検出できず。	HQ135	3
豪 の 松 原	上・七本松通下長者町下る三番町地先	4/23-6/8	地表下0.6m以下、平安の包含層、時期不明の溝。	HQ36	3
"	上・七本松通出水下る七番町351	6/16・17	地表下0.26mにて時期不明の包含層。	HQ104	3
"	上・七本松通出水上る西入三番町274	6/20	盛土のみ。	HQ110	3
"	中・築栄堀西町166-7	11/2	盛土のみ。	HQ273	3
右 兵 衛 府	上・下立光通御前東入西東町353	8/28-29	盛土のみ。	HQ183	3
内 匠 寮	中・西ノ京左馬寮町27-8	5/20	盛土のみ。	HQ63	3
"	中・西ノ京左馬寮町29-8	7/6-10	地表下0.4mにて平安前期の包含層。	HQ134	3
"	上・御前通丸太町上る下之町400	10/15	堀削工事なし。	HQ241	3
"	中・西ノ京左馬寮町21	10/23	盛土のみ。	HQ256	3
造 酒 司	中・築栄堀松下町9	11/6	盛土のみ。	HQ278	3
西 雅 院	上・智恵光院通丸太町上る西院町746-70	5/12	盛土のみ。	HQ60	3
左 馬 寮	中・西ノ京左馬寮町 朱雀第二小学校	11/5	巡回時、工事終了。	HQ275	3
典 義 寮	中・築栄堀松下町1-18	4/13	盛土のみ。	HQ12	3
"	中・西ノ京車坂町2-19	5/22	巡回時、工事終了。	HQ72	3
"	中・西ノ京車坂町2-19	5/22・25	盛土のみ。	HQ73	3
"	中・西ノ京車坂町2-19	6/4	盛土のみ。	HQ84	3
"	中・西ノ京車坂町2-19	6/4	盛土のみ。	HQ85	3
"	中・西ノ京車坂町7-10	8/7・10	検出できず。	HQ168	3
豊 楽 院	中・築栄堀中町29-1	10/5・6	検出できず。	HQ231	3
"	中・築栄堀西町124-2	10/5	検出できず。	HQ232	3
"	中・築栄堀西町186-24	10/22	盛土のみ。	HQ252	3
朝 堂 院	中・築栄堀東町6-10	7/24・27	地表下0.88mにて江戸の土壌。	HQ153	3
主 水 司	上・日暮通丸太町上る西入西院町747-75	4/14	検出できず。	HQ23	3
大 精 藏	上・丸太町通日暮西入北伊勢屋町742	4/13	検出できず。	HQ11	3
"	上・日暮通丸太町上る北伊勢屋町738	7/3	盛土のみ。	HQ128	3
大 炊 寮	上・大宮通丸太町下る羅屋町536-8他	4/13	盛土のみ。	HQ5	3
右 馬 寮	中・西ノ京右馬寮町8-52	10/23	盛土のみ。	HQ257	3

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査№	図版
刑部省	中・西ノ京右馬寮町15	9/17・21	検出できず。	HQ214	3
#	中・西ノ京内畑町13-6	12/21	巡回時、工事終了。	HQ315	3
彈正台	中・西ノ京内畑町26-8	6/9・10	盛土のみ。	HQ96	3
式部省	中・西ノ京小畑町2	9/18・21	盛土のみ。	HQ216	3
#	中・陸奥道南町30-3	10/6・13	検出できず。	HQ236	3

平安京右京 (HR)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査№	図版
北辺二坊 二町	上・仁和寺街道御前西入下横町227	7/20・22	検出できず。	HR145	5
北辺二坊 三町	上・御前通・今出川通～一条通地	9/28-10/26	検出できず。	HR224	5
北辺二坊 七町	北・大將軍西門135,126-1	6/29	検出できず。	HR123	5
一条二坊十三町	中・西ノ京西四町9,北四町18	11/10-13	検出できず。	HR280	5
一条四坊 一町	右・花園堀ノ毛町18	9/3-8	地表下0.2mにて平安末期の柱穴。	HR193	4
二条二坊十一町	中・西ノ京北壺井町48	9/9・18	検出できず。	HR203	5
二条三坊 二町	中・西ノ京中御門西町 朱雀第八小学校	4/13・16	検出できず。	HR20	4
二条三坊 四町	中・西ノ京北壺井町117,118	8/31・9/2	地表下0.13mにて平安の包含層。	HR185	4
二条三坊 七町	中・西ノ京春日町6	9/18・21	地表下0.34m以下、平安の包含層、古墳の土壌。	HR215	4
二条四坊 三町	右・太善安井藤ノ木町16-1	5/18	地表下0.62mにて平安の包含層。	HR62	4
二条四坊十一町	右・太善安井馬寮町18	7/28・29	地表下0.68mにて時期不明の落込み。	HR161	4
三条一坊十二町	中・西ノ京東月光町1-8,10	9/14・17	盛土のみ。	HR208	5
三条二坊 一町	中・西ノ京綱鉦町26-1	10/22-23	地表下0.4m以下、平安の包含層・落込み。	HR253	5
三条二坊 八町	中・西ノ京原町34	4/28-5/6	地表下1.02mにて平安の包含層。	HR41	5
四条一坊十六町	中・壬生中川町2-3	7/24・27	検出できず。	HR154	9
四条二坊十六町	右・西院西今田町10	8/27・9/2	地表下0.3mにて平安の包含層。	HR182	9
四条三坊 五町	右・西院乾町56	6/9・15	地表下1.1m以下、平安前期の溝・土壌・包含層、鎌倉の土壌・包含層。	HR95	8
四条三坊 九町	右・西院金鶴町8	6/5・9	盛土のみ。	HR92	8
四条四坊 四町	右・西院四条畑町19	4/17・20	地表下0.6mにて時期不明の包含層。	HR29	8
四条四坊 六町	右・山ノ内山ノ下町 山ノ内小学校	12/24	地表下1.77m以下、時期不明の包含層。	HR322	8
四条四坊十二町	右・山ノ内地尻町1-1	8/3・5	検出できず。	HR164	8
五条一坊十三町	中・壬生下澤町38-29	5/25-29	検出できず。	HR74	9
五条二坊十三町	右・西院舟町27	9/2・4	地表下1.32mにて地の東層にあたる落込み。層には杭を伴う。	HR189	9
五条三坊 九町	右・西院坤町100	7/27-30	地表下0.4mにて南北方向の溝の東層検出、時期不明。	HR159	8
五条三坊十一町	右・西院久田町108地	9/16・17	地表下0.56mにて時期不明の包含層。	HR212	8
五条四坊 九町	右・西院安塚町14-1・2	10/26-29	地表下1.13mにて平安の遺物を含む湿地位状堆積。	HR262	8
五条四坊十六町	右・西院東貝川町6-1・2	10/28-11/2	検出できず。	HR266	8
六条一坊 二町	下・中堂寺北町5-4	7/27・28	検出できず。	HR160	9
六条一坊 八町	中・七本松通・高辻通～五条通	4/28-5/28	地表下0.8m以下、流路状堆積。	HR35	9
六条二坊 五町	下・西七条東御前田町13・14	6/29-7/6	検出できず。	HR124	9

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査№	図版
六条二坊十六町	右・西院寿町35-3	4/16～18	地表下0.9mにて平安の柱穴・路面。佐井川の東岸、二列の柱。	HR28	9
#	右・西院寿町27	5/20・22	地表下0.58m以下、時期不明の流れ堆積。	HR69	9
六条三坊 五町	右・西院西講崎町44	10/30	地表下0.51mにて平安の包含層。	HR271	8
六条四坊十二町	右・西京極東大丸町13-1・2	9/21・24	盛土のみ。	HR218	8
六条四坊十三町	右・西京極西大丸町73、74	9/7・8	検出できず。	HR198	8
#	右・西京極野田町56	12/1	盛土のみ。	HR301	8
七条二坊 八町	下・西七条西石ヶ坪町 七条第三小学校	5/11～19	盛土のみ。	HR57	9
七条三坊 八町	右・西京極北住地町14-2	9/8・10	地表下1.36m以下、湿地堆積。	HR199	8
七条四坊 七町	右・西京極東池田町地	6/26-7/6	検出できず。	HR115	8
八条二坊 五町	下・梅小路西中町36	11/12～17	地表下0.6m以下、古墳～平安の遺物を含む湿地堆積・八条大路路面。本文5ページ。	HR283	13
八条二坊十六町	下・西七条南衣田町20-1他	6/4・11	盛土のみ。	HR88	13
#	下・西七条南衣田町20-3	7/24・29	検出できず。	HR155	13
八条三坊 十町	右・西京極下沢町地先	5/20～26	検出できず。	HR71	12
九条一坊 一町	南・唐橋赤金町29、39	8/10-9/1	盛土のみ。	HR170	13
九条一坊 四町	南・唐橋高田町52-4	5/1	地表下0.75mにて時期不明の溝。	HR47	13
九条二坊 八町	下・梅小路高畑町地先	11/17-12/1	地表下0.5mにて平安の整地層。	HR292	13
九条三坊 四町	南・吉祥院中島町16-2	8/3	盛土のみ。	HR165	12
九条三坊 九町	南・吉祥院西ノ庄西中町1	11/30-12/9	検出できず。	HR298	12
九条四坊 六町	南・吉祥院中河原里町18	11/5・10	検出できず。	HR276	12

平安京左京 (HL)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査№	図版
北辺二坊 二町	上・黒門通中立売下る榎町379	9/10・16	検出できず。	HL206	6
北辺三坊 三町	上・室町通中立売下る花立町506-3	6/1	盛土のみ。	HL76	7
一条二坊 九町	上・東堀川通上長者町下る二丁目19-1他	9/9～17	地表下0.38m以下、時期不明の包含層・土壌。	HL202	6
#	上・東堀川通下長者町下る三丁目地先	9/25・10/6	擾乱のみ。	HL222	6
一条二坊十二町	上・東堀川通榎木町上る五丁目208	5/11～21	地表下3mにて時期不明の井戸。	HL56	6
一条二坊十四町	中・下立売通小川東入西大路町地先	6/15-8/10	地表下0.18m以下、桃山の包含層、時期不明の路面・整地層。	HL100	6
一条三坊 八町	上・中長者町通室町西入東長者町542他	7/1・2	地表下1.12mにて平安後期の包含層、土割門大路の南側溝。	HL119	7
一条三坊十三町	上・京都御苑3	11/16	地表下0.6m以下、流れ堆積。	HL284	7
二条二坊 八町	上・堀川道丸太町上る上堀川町134他	6/29-7/6	地表下0.75mにて桃山の井戸。	HL121	6
二条二坊十五町	中・小川通丸太町下る中之町85	12/4-12/1	地表下1.52mにて江戸の整地層。	HL312	6
二条二坊十六町	上・小川通丸太町上る鍛冶町329他	7/14・15	地表下1.15mにて江戸の土壌。	HL139	6
二条三坊十一町	中・奥川通室町東入巴町81	4/15	検出できず。	HL27	7
二条三坊十二町	中・鳥丸道二条上る壽輪屋町267	4/23-5/7	地表下1.58m以下、時期不明の路面・落込み、室町の包含層。	HL39	7
#	中・鳥丸道二条上る壽輪屋町260	12/7・14	盛土のみ。	HL304	7

道 路 名	所 在 地	調査日	調 査 概 要	調査No	図版
二条四坊 二町	中・間之町通丸太町下る西東屋町地先	6/5~8/5	地表下0.2m以下、時期不明の路面。	H L 90	7
	中・高倉通竹屋町下る権屋町地先	7/23~8/17	地表下0.35m以下、時期不明の路面・整地層。	H L 150	7
二条四坊十三町	中・二条通御申町西入丁字屋町690	7/3・6	地表下0.72m以下、時期不明の整地層。	H L 126	7
二条四坊十五町	中・丸太町通、烏丸通~河原町通	11/2	攪乱のみ。	H L 269	7
三条一坊 三町	中・西ノ京榎尾町、教町町地	6/18	地表下0.7mにて時期不明の包含層。	H L 108	6
三条一坊十一町	中・神泉苑通姉小路下る瓦師町48	4/20	検出できず。	H L 34	6
三条二坊 四町	中・黒門通三条上る上一文字町307	6/10~17	地表下0.7mにて時期不明の落込み。	H L 99	6
三条二坊十三町	中・小川通姉小路下る西堂町504	8/20・31	地表下0.91mにて時期不明の土壌。	H L 174	6
三条三坊 四町	中・三条通新町西入釜座町26	7/16・8/11	地表下0.49mにて時期不明の包含層。	H L 142	7
三条三坊 五町	中・室町通三条下る役行者町367	4/13	地表下1.52m以下、時期不明の整地層・江戸の包含層。	H L 1	7
＃	中・三条通新町東入衣櫛町46	9/2・9	地表下1.2m以下、鎌倉・室町の包含層、三条大路の路面。	H L 192	7
＃	中・衣櫛通姉小路下る抜辻町	11/24~12/2	地表下1.3m以下、室町・江戸の包含層。	H L 289	7
三条三坊十二町	中・両替町通姉小路下る榎本町395	5/21・25	地表下2.23mにて平安後期・時期不明の土壌。	H L 64	7
三条四坊 三町	中・間之町通御池下る綿屋町	7/27・8/11	検出できず。	H L 157	7
三条四坊 九町	中・富小路通二条下る俵屋町191-1	11/30	地表下1.88m以下、平安前期の包含層。	H L 294	7
四条一坊 一町	中・壬生朱雀町6-2・5	6/2~7/23	検出できず。	H L 82	10
＃	中・壬生朱雀町6-2	6/2~7/23	検出できず。	H L 83	10
＃	中・壬生朱雀町 朱雀第一小学校	10/27~28	盛土のみ。	H L 265	10
四条二坊十三町	下・四条通・堀川通~室町通地内	4/20・23	攪乱のみ。	H L 37	10
四条三坊 一町	中・三条通新町西入釜座町14	7/21・23	地表下1.41m以下、鎌倉の柱穴、室町の土壌、柱穴には根石有り。	H L 144	11
四条三坊十一町	中・姉小路通室町東入占出山町311	4/27~5/6	地表下1.53m以下、室町の包含層、弥生中期の埋地状落込み。本文14ページ。	H L 44	11
四条三坊十六町	中・東洞院通三条下る三文字町227-1	10/20~11/1	地表下2.25mにて室町の土壌、南北方向の壕。本文17ページ。	H L 268	11
四条四坊 二町	中・六角通高倉西入勝屋町177	10/22~26	地表下0.9mにて時期不明の整地層。	H L 254	11
四条四坊 三町	中・東洞院通姉小路上る元竹田町639-1	12/15	検出できず。	H L 314	11
四条四坊 八町	中・三条通高倉東入料屋町59-1	9/28~10/9	地表下1.65m以下、平安中期・室町の包含層、平安後期・鎌倉の土壌、井戸。	H L 225	11
四条四坊 十町	中・六角通御馬場東入井筒屋町399-1	7/20・21	検出できず。	H L 143	11
四条四坊十六町	中・姉屋町通三条下る白壁町437-1	6/1	盛土のみ。	H L 80	11
＃	中・三条通姉屋町東入弁慶石町40	9/18~10/12	地表下1.53m以下、平安末期~鎌倉・室町の土壌、平安末期~鎌倉の包含層。	H L 204	11
五条一坊十三町	下・大宮通高辻下る高辻大宮町113	5/22	地表下0.97mにて平安の包含層。	H L 65	10
五条二坊 二町	下・仏光寺通南堀西入西田町603	7/10	検出できず。	H L 137	10
五条二坊 三町	下・大宮通・四条通~五条通	4/23~8/17	地表下0.36m以下、時期不明の路面。	H L 38	10
五条二坊 五町	下・高辻通堀川西入重水町676	7/24	地表下0.28m以下、平安中期・江戸の包含層。	H L 151	10
五条二坊 十町	下・油小路通姉小路下る風早町564他	6/3~12	地表下1.38m以下、鎌倉の土壌、平安前期・室町の包含層。	H L 86	10
五条四坊 十町	下・姉屋町通姉小路下る俵屋町302他	9/14・16	地表下1.13m以下、桃山~江戸の包含層。	H L 205	11

道 路 名	所 在 地	調査日	調 査 概 要	調査No.	図版
五条四坊十一町	下・越屋町通仏光寺下の鍋屋町241-1	10/14	盛土のみ。	H L 237	11
五条四坊十二町	下・高小路通高比下る恵美須屋町194-1	8/24・31	検出できず。	H L 176	11
五条四坊十六町	下・御幸町通四条下る大津町403他	4/14	地表下1.32m以下、時期不明の包含層。	H L 16	11
六条二坊 二町	下・猪熊通五条上る椿本町593-2	9/30-11/11	地表下0.5m以下、平安後期-室町の包含層。	H L 227	10
六条二坊十六町	下・油小路通松原下る樋口町315	11/25-12/14	検出できず。	H L 290	10
六条四坊 三町	下・間之町通五条下る大津町1他	10/5	地表下0.86m以下、鎌倉～室町の包含層。	H L 233	11
六条四坊十六町	下・寺町通松原下る植松町733他	5/26・27	地表下1.1m以下、江戸の遺物を含む流れ地積、室町の包含層。	H L 75	11
七条二坊 十町	下・西中筋通花園町下る榎町101	8/31-9/7	地表下0.9m以下、鎌倉の包含層、平安後期・平安末期～鎌倉の土壌。	H L 186	10
七条三坊 四町	下・七条通新町西入真之町686-3	4/13	地表下1.28mにて江戸の包含層。	H L 7	11
七条三坊十二町	下・七条通鳥丸西入東地町174他	4/27・5/1	地表下1.45m以下、鎌倉の包含層、平安末期～鎌倉の井戸。	H L 45	11
七条三坊十三町	下・下珠数屋町通東洞院西入橋町77	6/11・16	地表下1.3m以下、徳山・江戸・時期不明の包含層。方形の石が出土。	H L 94	11
七条三坊十六町	下・不明門通六条下る仏具屋町164	4/14	地表下0.8m以下、平安末期～鎌倉の土壌、鎌倉～室町の包含層。	H L 13	11
七条四坊十一町	下・土手町通七条上る船屋町地先	4/13	地表下0.17m以下、時期不明の路面・包含層。	H L 3	11
七条四坊十二町	下・七条通木屋町東入荻荷町他	5/2・9/28	地表下1.48m以下、時期不明の包含層、流れ堆積。	H L 51	11
#	下・西木屋町通七条上る新日吉町120	8/31	地表下0.43m以下、鴨川の氾濫堆積。	H L 187	11
七条四坊十三町	下・二之宮町通七条上る下二之宮町424-1	5/6・11	盛土のみ。	H L 53	11
八条一坊十六町	下・七条通大宮西入和気町9	4/13	地表下0.1m以下、時期不明の包含層。	H L 21	12
八条二坊 三町	下・猪熊通塩小路下る上興町160	8/27・9/7	地表下1.5m以下、平安前期の包含層。	H L 179	12
八条二坊 四町	南・西九条小寺町地先	9/7～28	地表下0.2m以下、時期不明の路面・溜地堆積。数本の木杭有り。	H L 197	12
八条二坊 九町	下・下魚ノ標通堀川西入蔵屋町29	4/17・21	地表下0.5m以下、鎌倉の土壌、時期不明の落込み。	H L 32	12
八条二坊十三町	南・西九条北ノ内町	4/13・16	地表下2.6mにて江戸の包含層。	H L 15	12
#	南・西洞院通・八条通～東寺道他	6/12-7/16	地表下1.3mにて溝、杭2本検出、御土居の屑部と推定。	H L 97	12
八条二坊十四町	下・油小路通塩小路下る東塩小路町	10/26	盛土のみ。	H L 261	12
八条三坊 一町	下・七条通西洞院東入夷之町689	6/22・25	地表下1.0m以下、江戸の流路、西洞院川。	H L 111	13
八条三坊 三町	下・西洞院通塩小路下る東塩小路町	9/28・10/6	地表下1.9m以下、時期不明の包含層。	H L 226	13
#	下・塩小路通西洞院東入東塩小路町841-5	11/30	盛土のみ。	H L 295	13
八条三坊 五町	下・鳥丸通塩小路下る東塩小路町	7/27・8/3	地表下0.5mにて時期不明の包含層。	H L 156	13
八条三坊 八町	下・鳥丸通七条下る東塩小路町590-5	5/27	地表下0.3mにて時期不明の包含層。	H L 78	13
八条三坊十六町	下・鳥丸通七条下る東塩小路町735-3	10/26-27	地表下1.1m以下、時期不明の包含層、鎌倉の井戸。	H L 260	13
八条四坊 二町	下・東洞院通七条下る東塩小路町558	10/19-21	検出できず。	H L 244	13
八条四坊 十町	下・上之町13-3	5/11	検出できず。	H L 58	13
八条四坊十四町	下・川端町16 崇仁小学校	10/19	地表下1.04m以下、時期不明の包含層。	H L 245	13

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
八条四坊十五町	下・上之町9-3、4	8/27	盛土のみ。	H L180	13
九条四坊 四町	南・東九条上御堂町2	12/15	検出できず。	H L313	13

太秦地区 (UZ)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
円教寺跡	右・花園天授ヶ岡町28-38他	7/4-8	地表下0.4mにて平安前期の整地層をきって平安中期の土壌。	U Z130	
広沢古墳群	右・嵯峨広沢池下町地内	5/6-19	検出できず。	U Z52	
西野町遺跡	右・嵯峨野千代ノ道町53 嵯峨野小学校	8/10	盛土のみ。	U Z171	
大覚寺古墳群	右・嵯峨大覚寺門前堂ノ前町地先	6/24-7/18	地表下1.15m以下、時期不明の包含層。	U Z116	
嵯峨院跡	右・嵯峨観空寺明水町33-2	11/17	地表下0.1mにて時期不明の土壌。	U Z286	
＊	右・嵯峨観空寺明水町地先	11/27	盛土のみ。	U Z293	
古墳群	右・嵯峨広沢池下町88-5	5/1	地表下0.05mにて時期不明の包含層。	U Z46	
散布地	右・太秦京ノ道町14	7/31-8/5	検出できず。	U Z163	

洛北地区 (RH)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
植物園北遺跡	北・上賀茂地端町60-1	4/13	盛土のみ。	R H17	
＊	北・上賀茂地端町60-1	4/13	盛土のみ。	R H18	
＊	北・上賀茂松本町38	5/19-21	検出できず。	R H66	
＊	北・上賀茂土門町75	6/6-10	地表下0.2mにて時期不明の包含層。	R H93	
＊	北・上賀茂土門町	6/15-17	検出できず。	R H103	
＊	左・下鴨南芝町28-2	7/3-6	盛土のみ。	R H129	
＊	北・上賀茂向繩手町4	7/22-27	地表下0.3mにて時期不明の包含層。	R H148	
＊	北・上賀茂藤田町58	7/27-29	検出できず。	R H158	
＊	左・下鴨神殿町3-2	10/19-22	地表下0.27mにて平安の包含層、時期不明の柱穴。	R H247	
＊	左・下鴨水口町46	11/2	検出できず。	R H270	
＊	左・下鴨南茶ノ木町37	12/11	検出できず。	R H310	
岩倉中在地遺跡 隣接地	左・岩倉松村町地先	9/17-25	検出できず。	R H213	
栗栖野瓦窯跡	左・岩倉幡枝町667-1	10/26- 11/26	平安後期の瓦当1点。	R H288	
本山古墳群	左・岩倉幡枝町323	7/14-15	検出できず。	R H138	
大宮北山ノ前瓦窯跡	北・大宮北山ノ前町31	7/8	地表下0.49mにて時期不明の包含層。	R H136	
河上瓦窯隣接地	北・大宮中ノ社町 大宮小学校	10/23-11/1	地表下0.5mにて時期不明の包含層。	R H258	
釈迦谷鹿寺	北・大宮釈迦谷地先	7/16	地表下0.3mにて麻状遺構2基。	R H147	
上総町遺跡	北・小山上総町22 大谷大学	7/24-30	地表下0.39m以下、渡路内埋積。	R H152	
相国寺田境内	上・室町通上立売上る室町頭町 室町小学校	8/6	盛土のみ。	R H167	
北野島前町遺跡 隣接地	上・御前通今出川上る島前町 翔雲小学校	4/14	地表下1.06mにて時期不明の土壌・柱穴。	R H10	

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
北野鹿寺	北・下白梅町24-1	9/18・21	地表下0.8mにて時期不明の包含層、炭灰岩片出土。	RH217	
北野鹿寺 北野遺跡	北・北野西白梅町12-1	10/22-26	地表下0.65m以下、飛鳥・平安後期の柱穴、落込み。	RH251	
聚楽第跡	上・殿屋町通一条上る晴明町811他	10/19-26	検出できず。	RH248	

北白川地区 (KS)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
北白川鹿寺	左・北白川堂ノ前町25-3	10/30	盛土のみ。	KS267	
京都大学	左・吉田泉殿町5	9/2-7	地表下0.62m以下、平安・室町・時期不明の包含層。	KS191	14
西部構内遺跡 禅林寺旧境内	左・若王寺町他	7/2-8/25	地表下0.14m以下、時期不明の路面・整地層・泥路堆積。	KS120	
白河街区跡	左・北門前町	4/13-16	地表下0.65m以下、平安の包含層、平安後期～鎌倉の整地層。	KS2	14
白河街区跡	左・岡崎天町31-1	4/17-23	地表下0.75m以下、弥生後期～古墳前期・室町の包含層、火山灰。	KS31	14
岡崎遺跡	左・岡崎円勝寺町地先	4/21-8/7	地表下0.54m以下、鎌倉・時期不明の包含層、整地層。	KS43	14
白河街区跡	左・岡崎円勝寺町地先	4/21-8/7	地表下0.54m以下、鎌倉・時期不明の包含層、整地層。	KS43	14
*	左・森町335-1	9/1	地表下1.74mにて江戸中期の包含層。	KS188	14

洛東地区 (RT)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
中區遺跡	山・勧修寺西金ヶ崎85-3	4/13	検出できず。	RT14	
"	山・勧修寺西金ヶ崎58-6	4/15	検出できず。	RT26	
"	山・東野森野町2-68他	6/5・11	検出できず。	RT89	
"	山・勧修寺東果栖野町85-3	6/17	検出できず。	RT107	
"	山・栗栖野打越町7-33	8/12	検出できず。	RT172	
"	山・勧修寺東金ヶ崎23-1	9/22	盛土のみ。	RT219	
"	山・西野山中區町26-2	10/1	巡回時、工事終了。	RT228	
"	山・西野山中區町26-2	10/5	巡回時、工事終了。	RT235	
"	山・勧修寺西果栖野町40-32	10/23	検出できず。	RT259	
"	山・栗栖野華ノ木町2-11	12/4	盛土のみ。	RT303	
"	山・栗栖野打越町30-1	12/25	盛土のみ。	RT323	
安祥寺下寺跡	山・安朱北屋敷町	7/14	地表下0.58mにて江戸の包含層。	RT140	
元屋敷鹿寺跡	山・大宅御所田町地先	9/25-10/14	検出できず。	RT223	
芝町遺跡	山・四宮芝畑町地先	6/24-7/3	地表下0.2mにて時期不明の路面。	RT114	
日ノ岡遺跡	山・日ノ岡堤谷町地2	7/2-16	検出できず。	RT125	
法興院跡	中・新島丸通竹屋町上る梅之木町133-1	10/2-12	地表下1.1mにて平安後期の東西溝・整地層、鎌倉～室町の土壌。本文29ページ。	RT229	
紙園町遺跡	東・紙園町北面347-145	9/8・11	地表下0.46mにて鎌倉・時期不明の土	RT200	

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査№	図版
珍皇寺旧境内	東・小松町594-2	10/16-27	順。 地表下0.3mで飛鳥～平安前期の瓦・土器を含む土壌、鎌倉の井戸。本文36ページ。	R T 240	
六波羅政庁跡	東・下梅屋町150	4/15・21	検出できず。	R T 22	
法住寺殿跡	東・妙法院前側町447	11/9～12	地表下0.5mにて室町の落込み。	R T 279	
法住寺殿跡	東・本町十一丁目地先	6/17-8/11	地表下0.18m以下、時期不明の路面・地状地構。	R T 106	
法性寺跡	東・本町十七丁目353	7/6	地表下1.25mにて時期不明の包含層。	R T 127	
＊	東・泉通寺堂々森町5-1	12/9・14	検出できず。	R T 305	

伏見・醍醐地区 (FD)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査№	図版
伏見城跡	伏・下板橋町610 伏見板橋小学校	4/13	検出できず。	FD 9	
板橋庵寺跡					
伏見城跡	伏・新町十二丁目307	4/17・21	地表下0.47mにて江戸の南北方向の溝。	FD 33	
＊	伏・桃股町4	4/23-5/11	地表下1.21m以下、室町の土壌、時期不明の落込み。	FD 40	
＊	伏・東大手町750	5/1-19	地表下0.82m以下、室町～江戸の包含層、大手筋北御石組溝の積石4個体。	FD 49	
＊	伏・下油掛町153-1	5/11	盛土のみ。	FD 59	
＊	伏・西大手町地先	5/27・29	擾乱のみ。	FD 77	
＊	伏・桃山町丹下30	6/5・8	地表下0.36mにて時期不明の土壌。	FD 87	
＊	伏・深草大亀谷内膳町地先	7/7-10/15	地表下0.32m以下、時期不明の整地層・路面、桃山の包含層。	FD 132	
＊	伏・新町十三丁目286、287	7/15	盛土のみ。	FD 141	
＊	伏・納屋町120	8/20・24	地表下1.06m以下、時期不明の包含層、漆喰層。	FD 175	
＊	伏・桃山町遠山地先	9/3	山土のみ。	FD 194	
＊	伏・京町三丁目200-1	9/4・14	地表下0.25mにて江戸の包含層。	FD 195	
＊	伏・深草大亀谷内膳町10	9/8-11	地表下0.6mにて桃山の土壌、時期不明の柱穴。	FD 201	
＊	伏・周防町333	9/14	検出できず。	FD 210	
＊	伏・桃山町榎米16-8	10/2・5	検出できず。	FD 230	
＊	伏・桃山福島大夫南町76、77、82	10/5	盛土のみ。	FD 234	
伏見城跡	伏・桃山町泰長老176-2	10/20	地表下0.52m以下、時期不明の整地層。	FD 246	
泰長老遺跡	帯長老児童公園				
伏見城跡	伏・新町三丁目487	10/22	地表下1.15m以下、江戸の包含層・落込み・土壌。	FD 255	
＊	伏・大亀谷五郎太町37 藤城小学校	11/16	検出できず。	FD 285	
嘉祥寺跡	伏・深草瓦町9-1他	6/3-12	地表下0.33mにて室町～桃山の包含層。	FD 81	
福栄寺跡	伏・深草藪之内町25-3	9/16・18	地表下0.62m以下、鎌倉・時期不明の	FD 211	

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
深草坊町遺跡	伏・深草東伊達町85	5/29	包含層。 地表下0.32mにて平安中～後期の包含層をきって平安後期の溝。本文41ページ。	FD79	
中山遺跡	伏・小栗橋中山田町67	4/13	検出できず。	FD8	
向島城跡	伏・向島二ノ丸町地先	8/31-11/12	地表下4.0mにて石垣、墨書石材2個体。 本文43ページ。	FD190	

鳥羽地区 (TB)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
鳥羽離宮跡	伏・中島前山町545	5/1	返却時、工事終了。	TB48	15
"	伏・中島宮ノ前町12-1	5/7	地表下0.3mにて時期不明の包含層。	TB55	15
"	伏・中島北ノ口町11	6/16	地表下0.87m以下、鉄分の沈着した層。	TB102	15
"	伏・中島宮ノ前町地先	6/22	検出できず。	TB112	15
"	伏・竹田小壘ノ内町68-4他	6/24	盛土のみ。	TB113	15
"	伏・中島河原町109	7/22	地表下0.4m以下、時期不明の包含層。	TB149	15
"	伏・中島前山町8-10	8/10	盛土のみ。	TB169	15
"	伏・中島福地町61他	9/14	地表下0.36mにて江戸の包含層。	TB209	15
"	伏・河原町地先	11/17	攪乱のみ。	TB287	15
"	伏・竹田内畑町120-4	12/3	盛土のみ。	TB300	15
"	伏・竹田岡川町2-4	12/11・16	盛土のみ。	TB307	15
"	伏・竹田浄菩提院町74、49、49-2	12/21	盛土のみ。	TB320	15
鳥羽離宮跡隣接地	伏・竹田田中宮町15-1他	11/10	地表下0.91mにて時期不明の包含層。	TB282	15
深草遺跡	伏・深草西浦町西丁目375	8/28・9/8	検出できず。	TB184	
"	伏・深草野田町14-3	12/1	盛土のみ。	TB302	
西飯倉町遺跡 隣接地	伏・深草池ノ内町 藤森中学校	4/13	検出できず。	TB6	
淀城跡	伏・淀池上町151-8他	6/24・25	地表下0.8mにて江戸の包含層、淀城の濠の西岸。	TB118	

南・桂地区 (MK)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
松聖遺跡	西・松聖北河原町地	7/20～22	検出できず。	MK146	
清水塚古墳	西・山田畑田町20-1	6/24	盛土のみ。	MK117	
中久世遺跡	南・久世中久世町一丁目、二丁目、四丁目	5/19・6/12	地表下1.2m以下、流路状堆積。	MK68	
中久世遺跡	南・久世中久世四丁目89-1・2	9/11・21	地表下0.3mにて時期不明の包含層。	MK207	
福西古墳群	西・大枝東長町3-511	10/14	盛土のみ。	MK239	
"	西・大枝中山町7-50他	10/24～27	検出できず。	MK263	
桂徳大寺町遺跡	西・桂徳大寺町地内	4/23～9/9	地表下0.22m以下、時期不明の路面。	MK42	

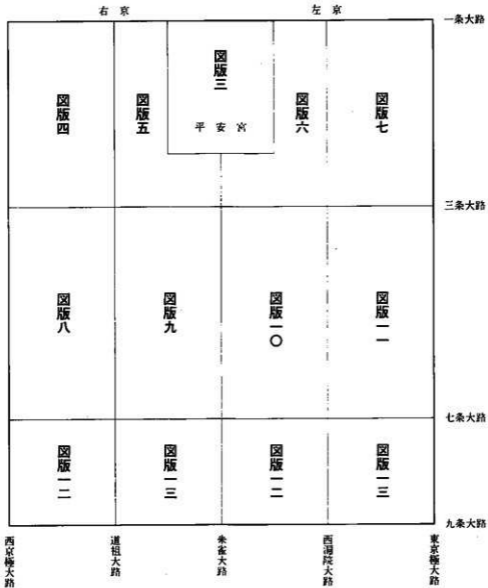
長岡京地区 (NG)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
長岡京跡	伏・流本町213地	4/16	盛土のみ。	NG4	
"	南・久世東土川町18	6/17・22	検出できず。	NG105	
"	南・久世築山町210-2	7/4	検出できず。	NG131	
"	南・久世東土川町16-2地	9/25-11/30	地表下1.86m以下、流れ堆積。	NG221	
"	伏・久我森ノ宮町6-26	10/16-11/4	検出できず。	NG243	
"	伏・久我本町11-35	10/21-27	検出できず。	NG250	
"	南・久世築山町212-1	11/5・10	盛土のみ。	NG277	
"	南・久世築山町377-1	11/10	検出できず。	NG281	
"	伏・久我西出町9-13	11/30	盛土のみ。	NG297	
"	伏・羽東師肥川町286	12/9・18	検出できず。	NG306	
"	伏・流水壘町	12/14	盛土のみ。	NG309	

目 版

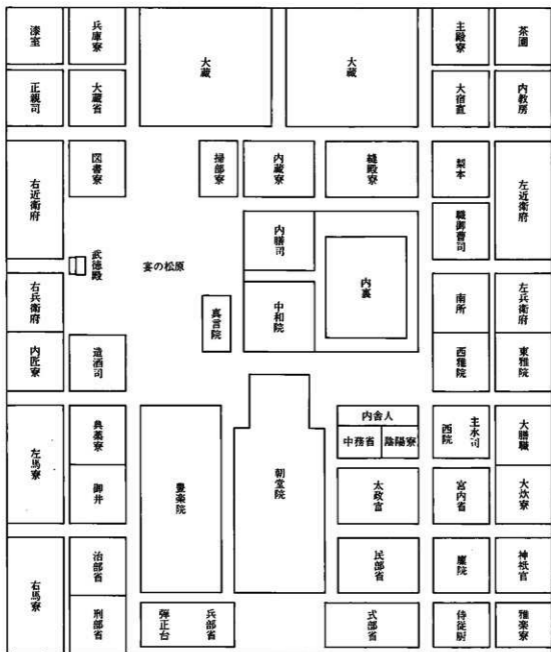
調査地点位置図

平安京図葉分割図



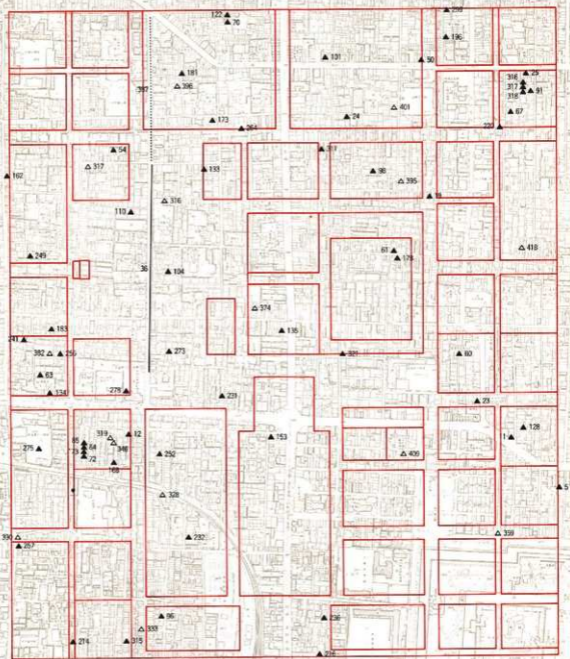
凡例

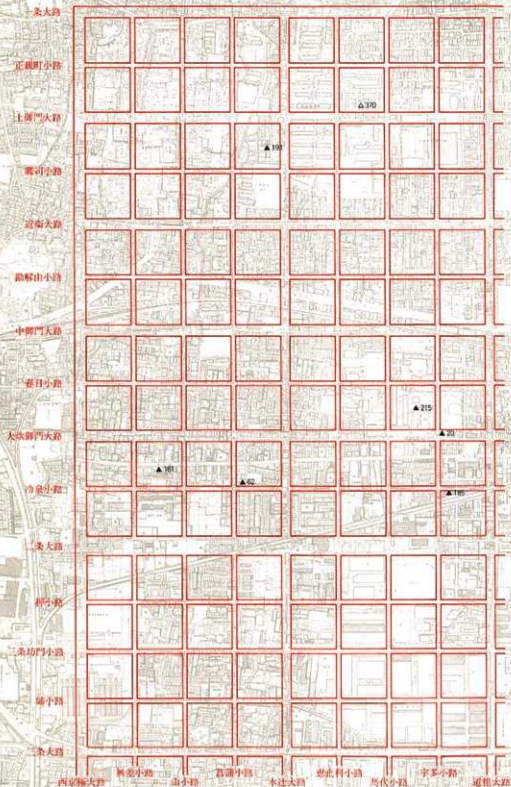
- △----- 1991年度立会調査地点 ▲----- 1992年度立会調査地点
 ----- 遺跡範囲



平安宮城概念図

平安宮





北京北門、中門、南門

204

▲429

▲▲大馬路

▲123

▲224

▲145

正陽門小路

土鑼門大路

廣司小路

延壽大路

錦繡山小路

中門門大路

春日小路

大坎銀門大路

冷泉小路

▲360

▲203

▲386

▲▲大馬路

▲41

▲253

押小路

▲▲土鑼門小路

錦小路

▲▲大馬路

▲208

道恩大路

野寺小路

西欄河小路

西縣魚小路

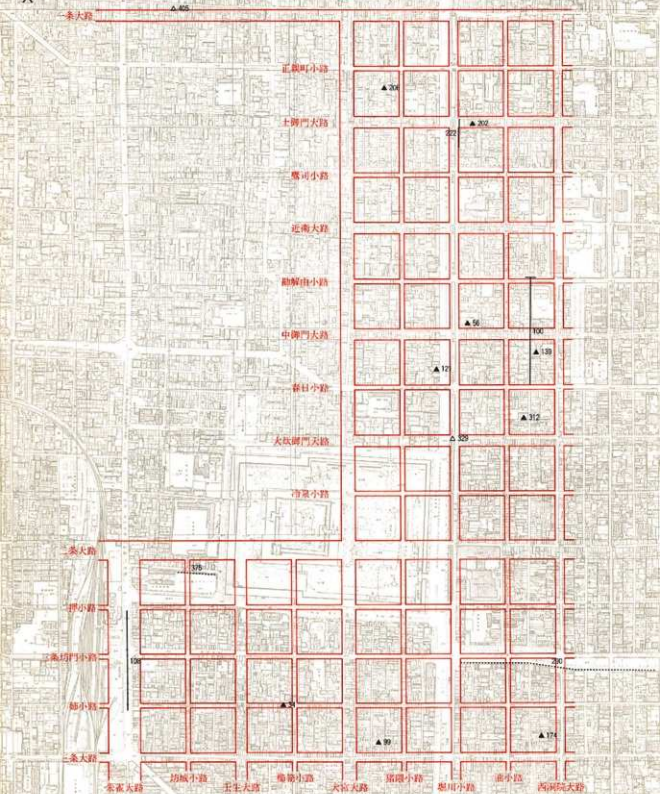
西大宮大路

西欄路小路

皇廟門大路

西坊城小路

朱雀大路



東大街

正教門小路

土衙門大街

廣司小路

近南大街

勸解由小路

中衙門大街

春日小路

大秋衙門大街

清寧小路

東大街

押小路

土衙門小路

柳小路

東大街

坊城小路

輪第小路

屠隄小路

翠川小路

蓮小路

西河院大街

東大街

東大街

東大街

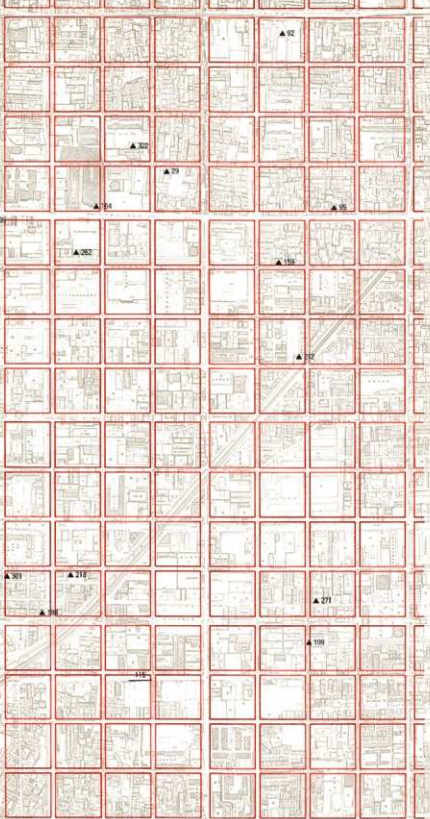
東大街

東大街

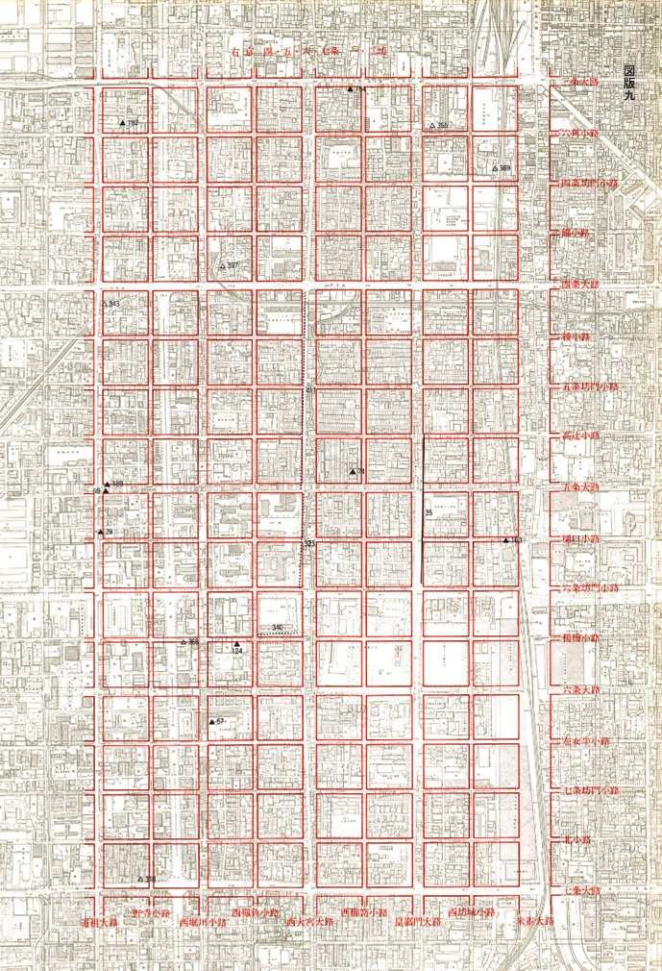
右京 四・五・六・七条 四坊

圖版八

東大路
六角小路
四條坊門小路
錦小路
四條大路
綾小路
五條坊門小路
高辻小路
五條大路
堀川小路
六條坊門小路
櫻川小路
六條大路
左女牛小路
七條坊門小路
北小路
七條大路

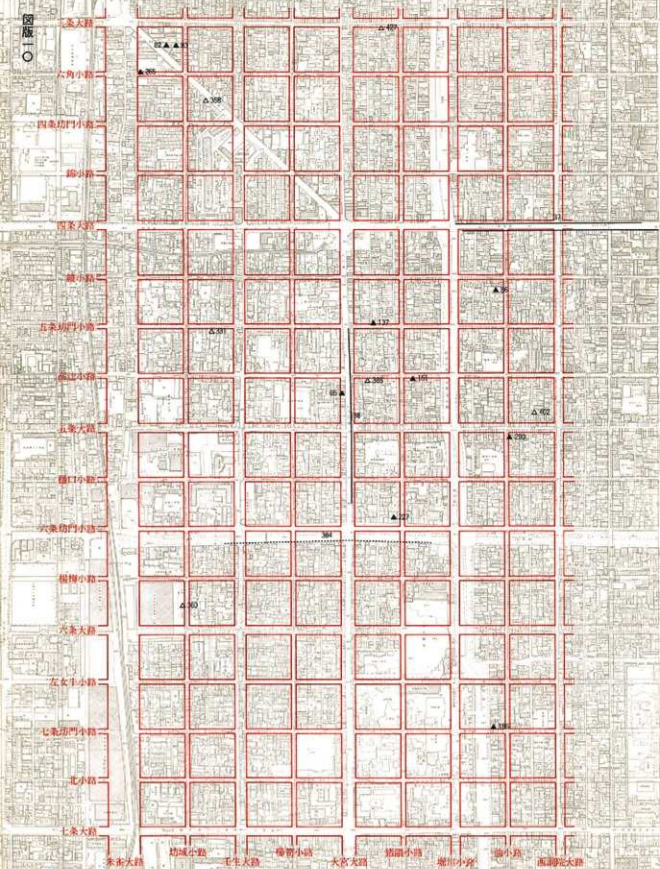


西京極大路 無差小路 山小路 高麗小路 木辻大路 惠止轉小路 馬代小路 平多小路 道祖大路

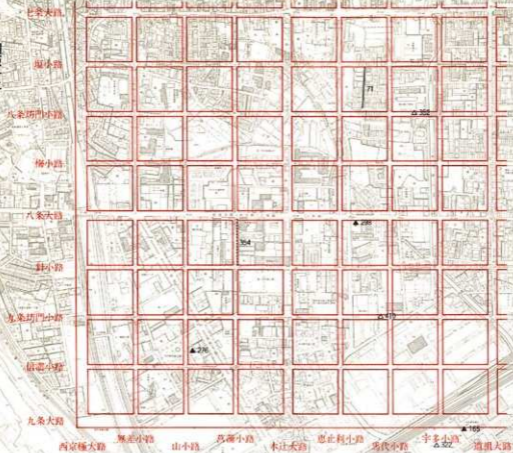


三條大街
六條小街
四條坊門小街
二條小街
南門大街
神戶街
五條坊門小街
高莊小街
五條大街
牌口小街
六條坊門小街
福樹小街
六條大街
左安門小街
七條坊門小街
北門大街
七條大街

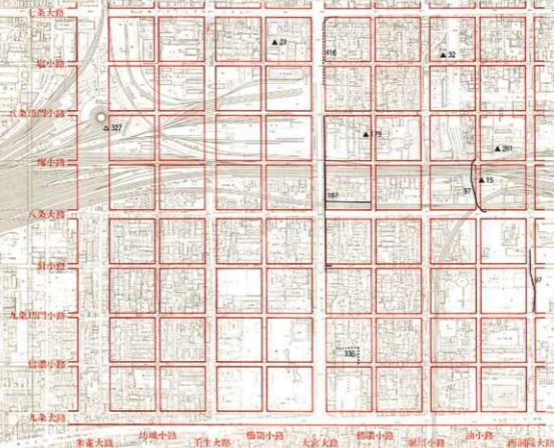
前門大街 西便門小街 西便門小街 西便門小街 西便門小街 西便門小街 西便門小街 米市大街

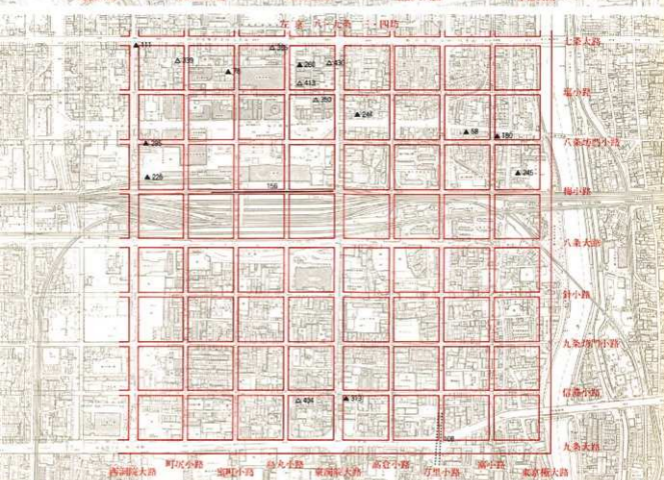
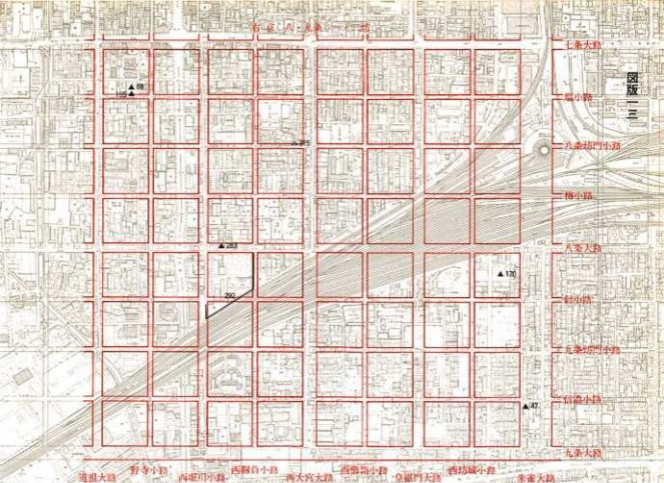


北京·九景子·四坊



北京·以·九景·坊







白河街区 (KS)

网略遗址 (KS)

▲ 111

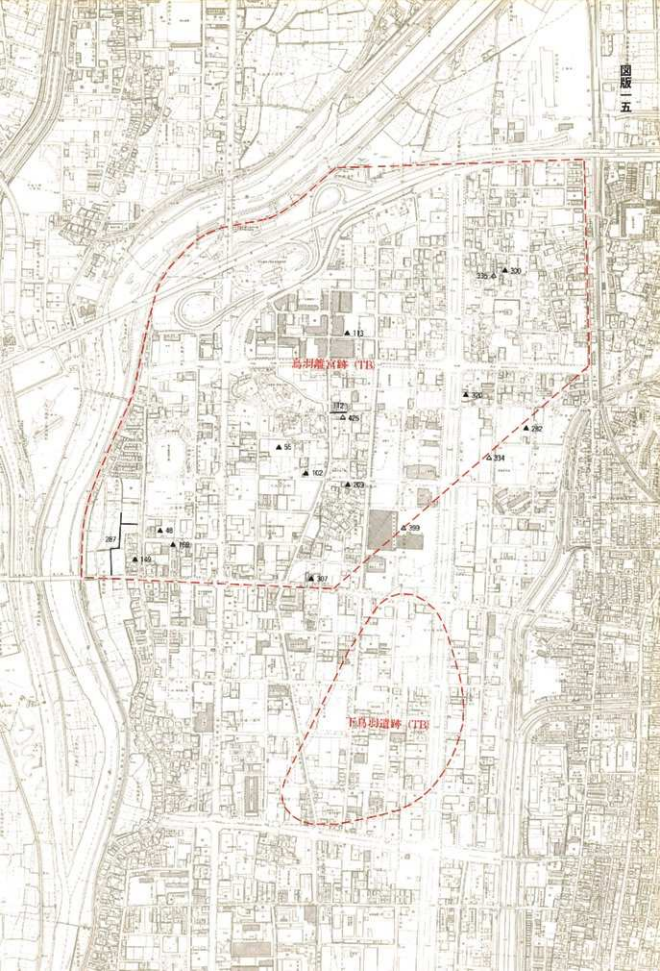
▲ 100

▲ 415

▲ 31

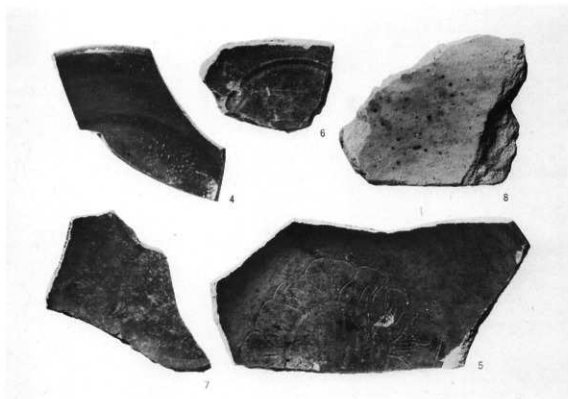
▲ 2

43

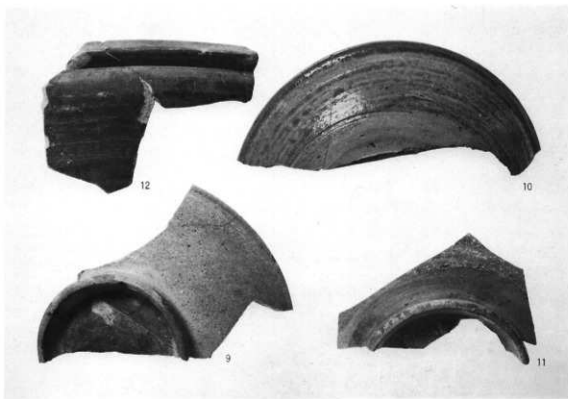


高碑店村 (T18)

下馬坊遺址 (T19)



1 緑釉陶器 (4-8)



2 灰釉陶器 (9-11)、埴土器 (12)



1 水溜遺構完掘状況とNo.2地点(東から)



2 No.2地点断面(北から)



1 水溜遺構著出土状況(北から)



2 漆器皿出土状況



15



17



16



19



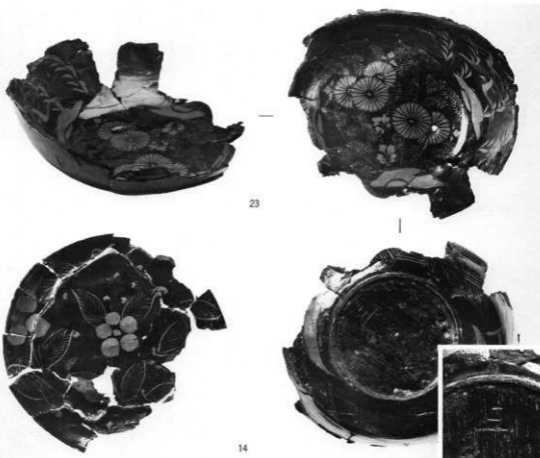
18



20



21



水溜遺構出土遺物 漆器碗 (23), 漆器皿 (14), 箸



25



25



24



22



水溜遺構出土遺物 折敷 (25), 膳脚部 (24), 漆器皿 (22), 銅骨, 種子



1

1 線刻画弥生土器 (1)



3

2 弥生土器器台 (3)



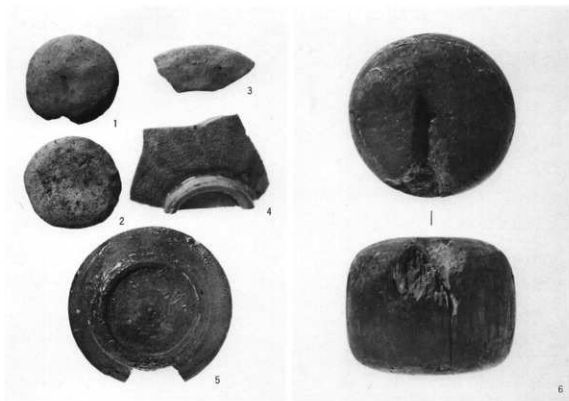
3 弥生土器 (2, 4-9)



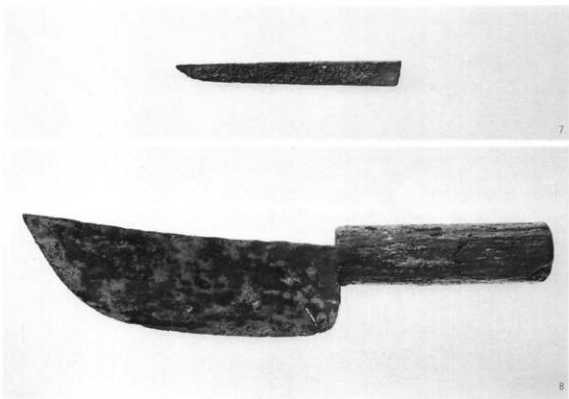
1 No. 4 地点 (南から)



2 No. 5 地点 濠 (北から)



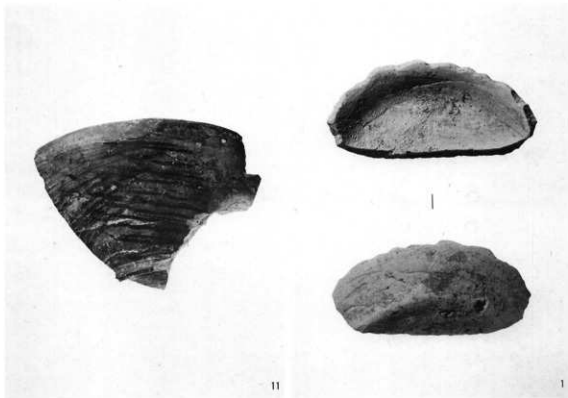
1 土師器 (1-3)、青磁碗 (4)、陶器皿 (5) 2 振振の球 (6)



3 刀子 (7)、庖丁 (8)



1 遺構断面 (北西から)

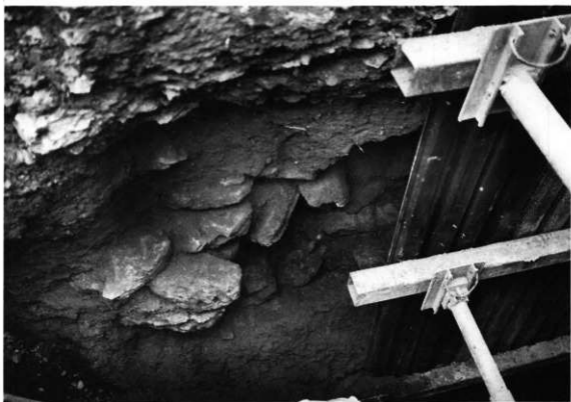


2 瓦器碗 (11)

3 土師器皿 (1)



1 No 4 A地点 2号墳石室断面 (東から)



2 No 4 B地点 2号墳石室断面 (西から)



1 No 5 地点 2号墳石室側壁裏込め (南西から)



2 No 6 地点 19号墳石室断面 (西から)



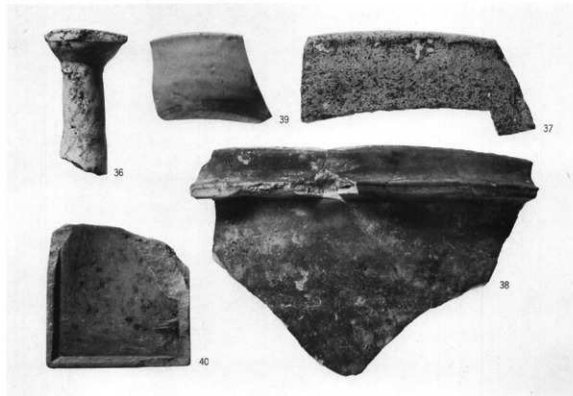
1 No.2地点 落込み (東から)



2 No.3地点 断面 (西から)



3 No.4地点 落込み (西から)



No. 3 地点 出土遺物



No 4 地点 出土遺物



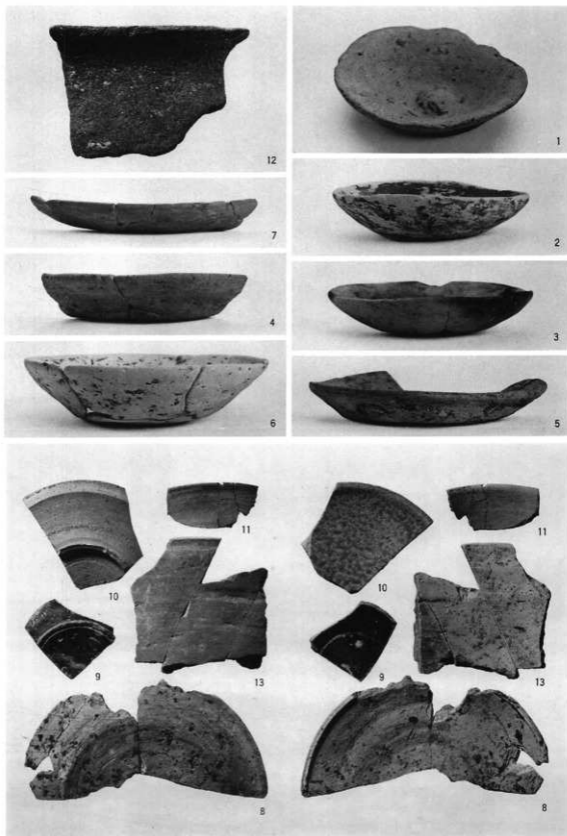
1 土壌SK7 (南から)



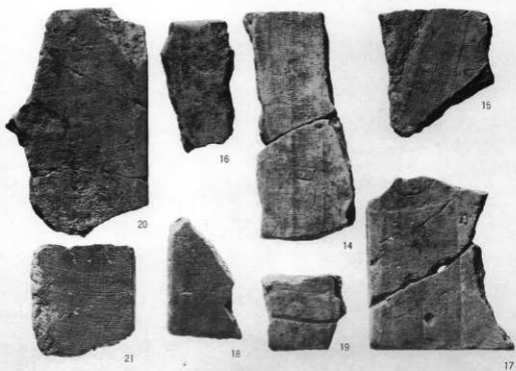
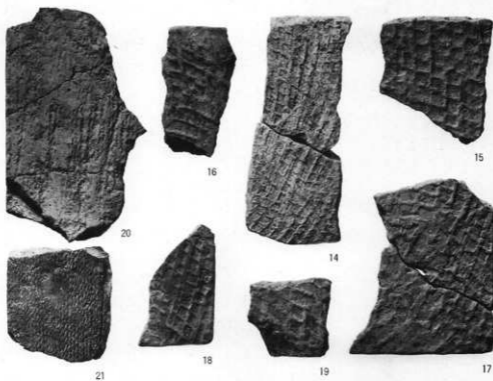
2 溝・柱穴 (西から)



3 溝・柱穴 (東から)



出土遺物 土師器 (1~7, 12), 須恵器 (8・13), 緑釉陶器 (9), 灰釉陶器 (10・11)





1 溝 (北から)



2 土器出土状況 (北から)



3 溝出土遺物 土師器 (6~9), 須恵器 (4), 瓦器 (10), 瓦 (1~3)



1 349-10地点 落込み (南から)



2 161-11地点 調査状況 (西から)



3 152-22地点 掘削断面 (南から)



1 349-22地点 石材出土状況(北西から)



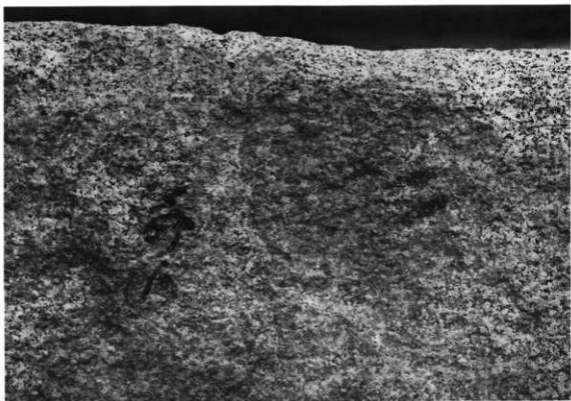
2 349-18地点 礎石出土状況(北から)



3 349-25地点 落込み(東から)



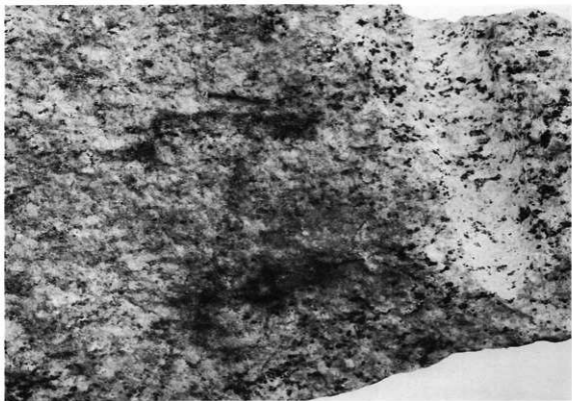
1 190-1地点 出土石垣用材 (1)



2 同上 墨書



1 190-1地点 出土石垣用材片 (2)



2 同上 墨書

京都市内遺跡立会調査概報

平成4年度

発行日 平成5年3月31日
発行 京都市文化観光局
住所 京都市左京区岡崎最勝寺町13 京都会場内
編集 (財)京都市埋蔵文化財研究所
住所 京都市上京区今出川大宮東入元伊佐町265-1
TEL (075) 415-0521
印刷 真 陽 社